

能登町地域公共交通計画

令和 5 年 3 月

能登町

目 次

1. はじめに	1
2. 上位・関連計画と地域公共交通計画の位置づけ	1
3. 地域の現状	2
4. 町民の移動状況と意向	6
5. 地域公共交通の現況	11
6. 地域公共交通を取り巻く課題の整理	41
7. 地域公共交通計画の基本的な方針	42
8. 地域公共交通計画の目標指標	43
9. 目標達成のための施策と事業	44
10. 取組施策の概要	45
11. 計画の推進体制と進捗管理	55
12. 能登町地域公共交通計画策定過程	56

1. はじめに

1-1 計画の目的

能登町では、平成 20 年度に能登町地域公共交通総合連携計画を策定し、予約制乗合タクシーの運行、路線の統合、利用促進等に取り組んできました。しかし、前回の計画策定から 10 年以上が経過しており、地域公共交通を取り巻く課題は変化していることが想定されます。まちづくりと一体となった持続可能な地域公共交通を再構築し、地域公共交通の再編と活性化を図るため、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律に基づき、地域公共交通計画の策定を行います。

1-2 計画の区域

能登町全域とします。

1-3 計画の期間

令和 5 年度から令和 9 年度までの 5 年間とします。

2. 上位・関連計画と地域公共交通計画の位置づけ

「能登町地域公共交通計画」は、町の最上位計画として、長期的展望に立つ総合的なまちづくりの指針となる「能登町第二次総合計画」(2016～2025 年度)を上位計画とし、上位計画で定める「人をつなぎ、地域をつなぎ、未来へつなぐまちづくり～ 人づくりが礎となる 未来への虹の架け橋づくり～」や「誰もが住みよいと感じる地域が一体となったまちづくり」の実現に向けて、地域公共交通のマスタープランとして策定します。

能登町第二次総合計画	
計画期間	2016～2025 年度
将来像	人をつなぎ、地域をつなぎ、未来へつなぐまちづくり ～ 人づくりが礎となる 未来への虹の架け橋づくり ～
公共交通の位置づけ	誰もが利用しやすい公共交通の充実 ・バス交通等の充実 生活路線バスの運行補助・利用促進、予約制乗合タクシーの運行補助 ・広域公共交通の利用促進 地域をつなぐ公共交通の充実、のと鉄道の利用促進

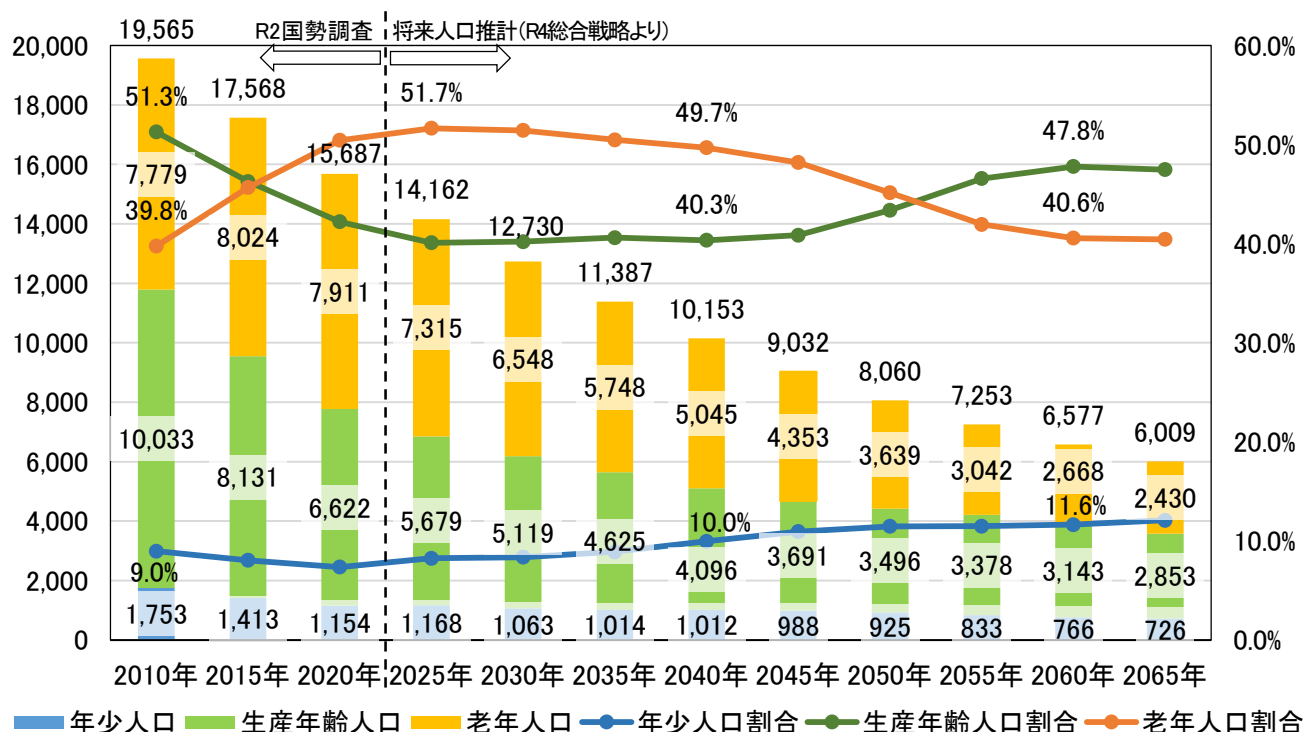
3. 地域の現状

3-1 人口

(1) 人口減少と高齢化の現状

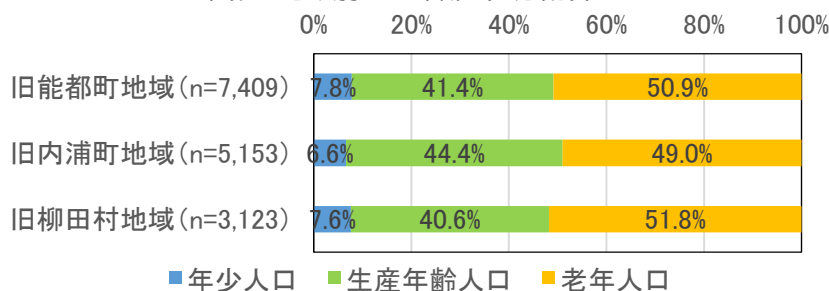
- ・能登町の人口は減少傾向にあり(2015年から2020年でおおよそ1,800人の減少)、2020年の人口(令和2年国勢調査)では1万5,687人となっています。2030年には約1万3,000人、2040年には約1万人になると推計されます。
- ・65歳以上の老年人口は既に減少傾向にあり、高齢化率は2025年に51.7%に達した後、減少することが予測されます。

図表 能登町の総人口・年齢3区分の人口推移と将来人口推計



- ・地域別人口年齢3区分割合は、旧能都町地域、旧柳田村の老年人口は5割を超えています。また、どの地域も年少人口は1割にも満たない状況です。

図表 地域別人口年齢3区分割合

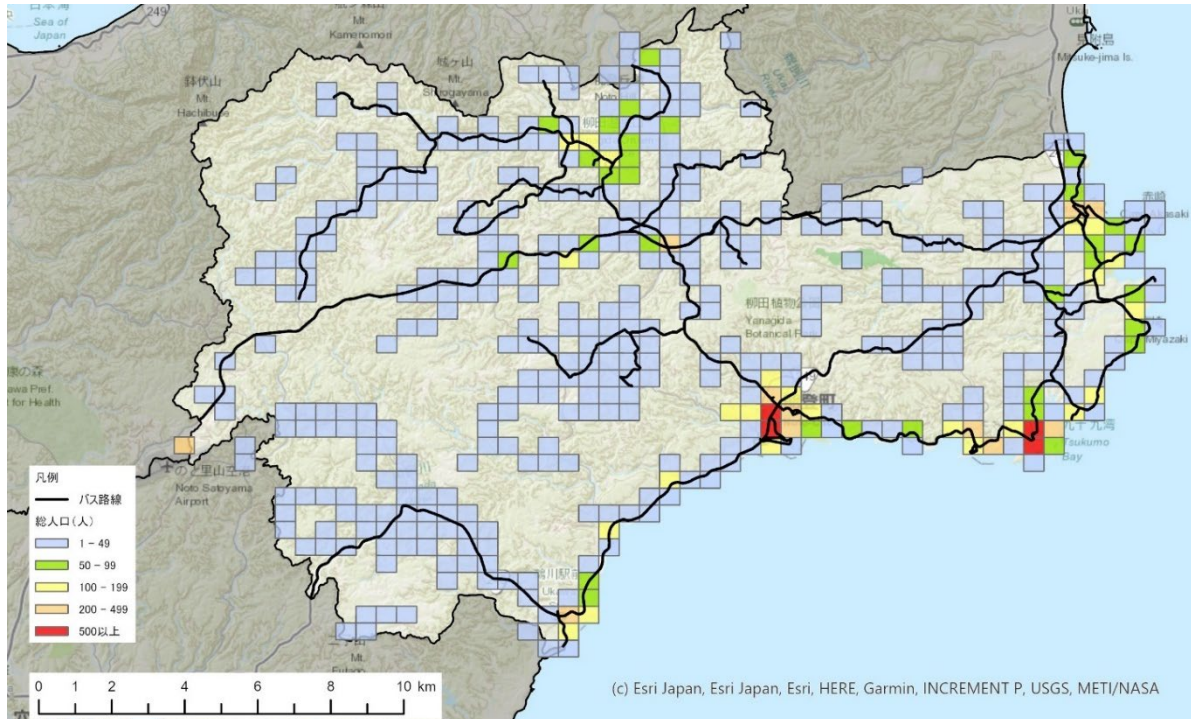


出典: R2 国勢調査

(2) 人口・年齢別人口の分布

① 総人口(R2)

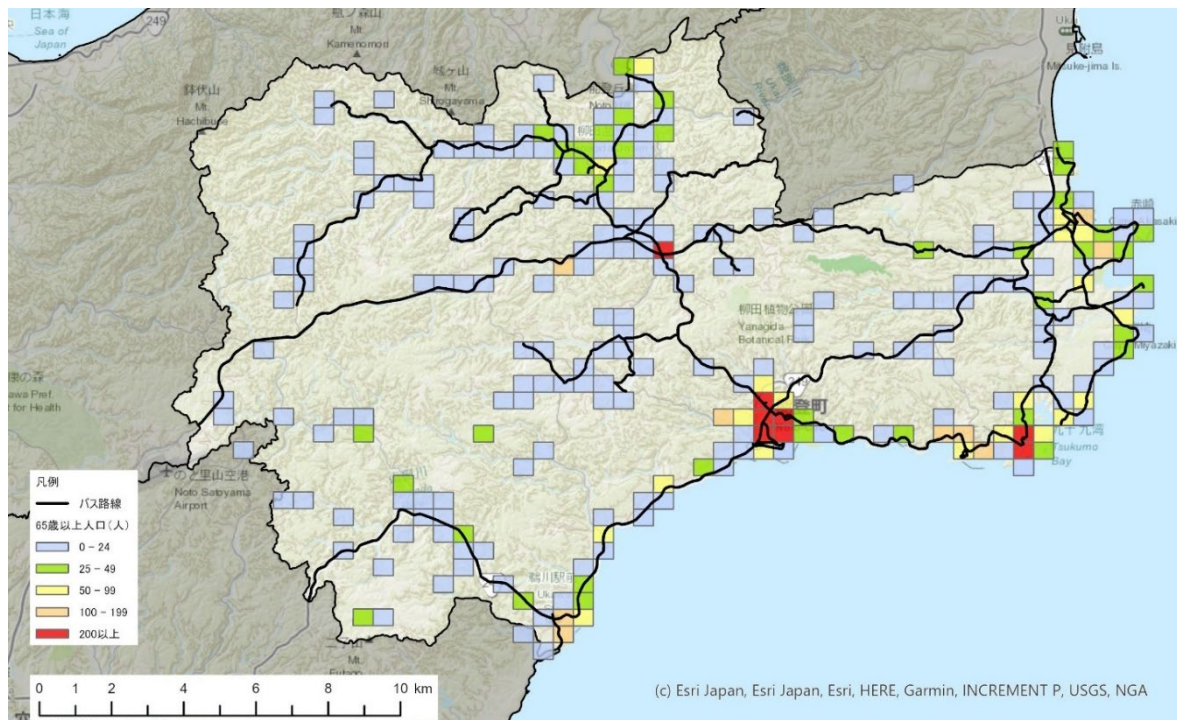
・宇出津地区と小木地区に人口が集中しています。バス路線が通っていない場所にも、広く人口が分布しています。



出典:R2 国勢調査

② 高齢者(65歳以上)人口(R2)

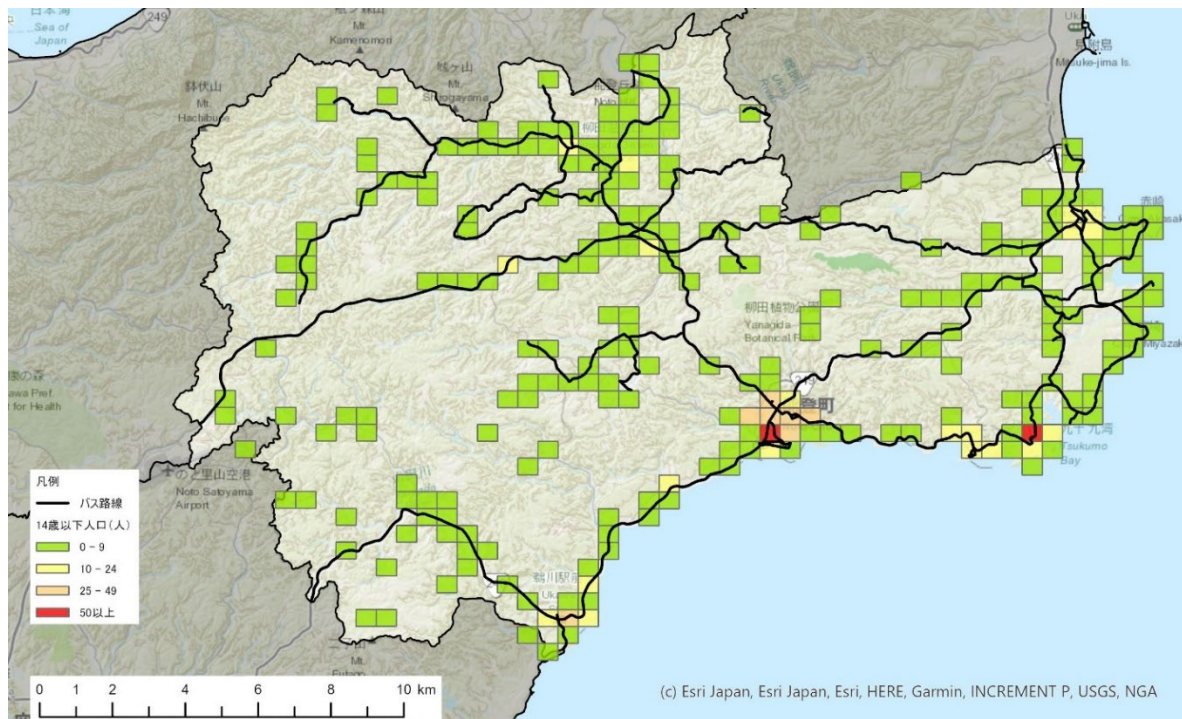
・宇出津地区、小木地区と柳田地区に高齢者人口が集中しています。



出典:R2 国勢調査

③ 年少者(14歳以下)人口(R2)

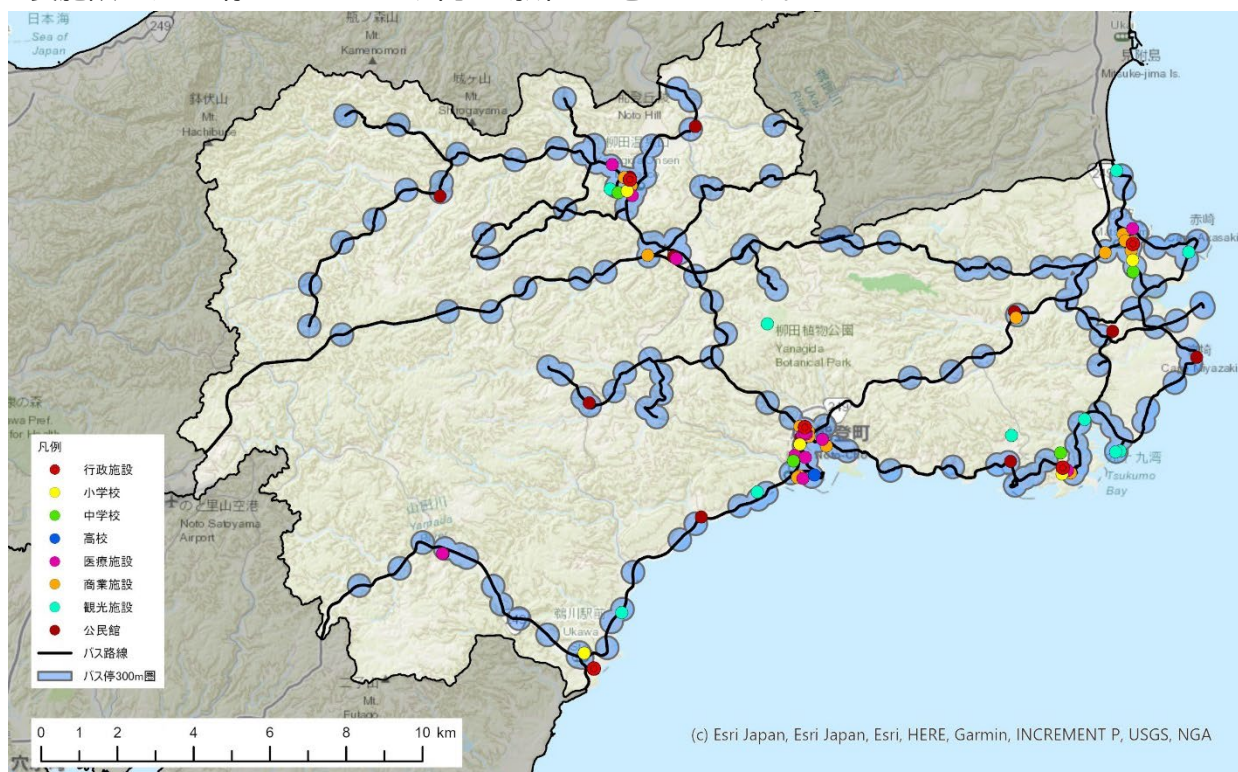
- ・宇出津地区、小木地区に年少者人口が集中しています。



出典:R2 国勢調査

3-2 主要施設の立地状況

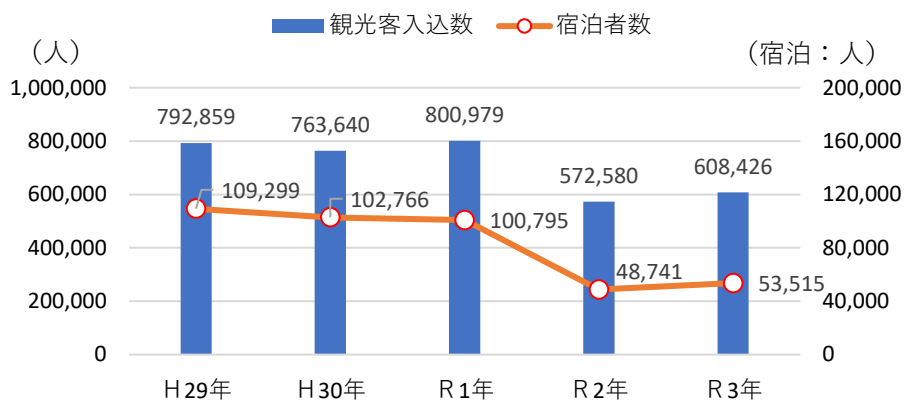
- ・主要施設は、宇出津地区、柳田地区、松波地区、小木地区に多く立地しています。また、ほぼすべての主要施設が、バス停から300m以内の場所に立地しています。



3-3 観光客の入込状況

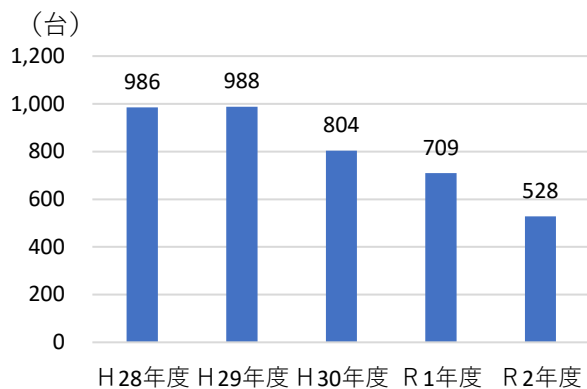
- ・能登町の観光客の入込客数は、令和元年まで約 80 万 1,000 人でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響から、令和 2 年以降は約 60 万人に減少しています。
- ・宿泊者数も同様に、令和元年まで約 10 万人でしたが、令和 2 年度以降は約 5 万人に減少しています。
- ・レンタサイクルの利用台数は、年々減少しており、令和 2 年度は約 500 台でした。

図 観光客の入込数と宿泊者数



出典：能登町観光マスタープラン

図 レンタサイクル利用台数

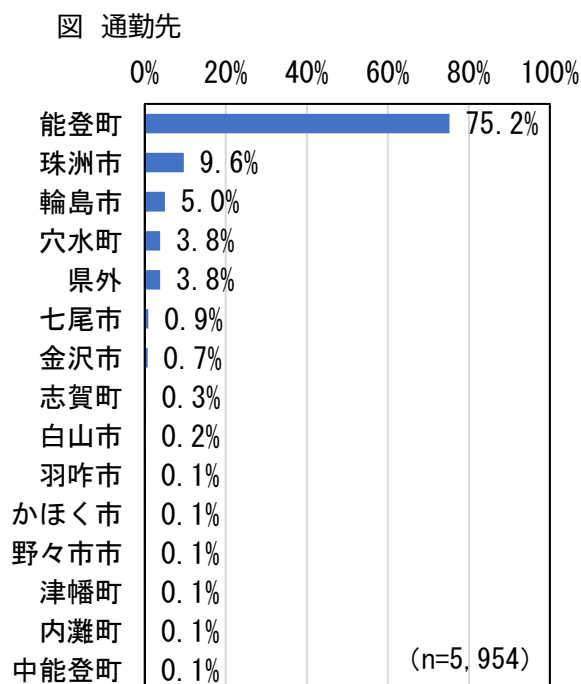
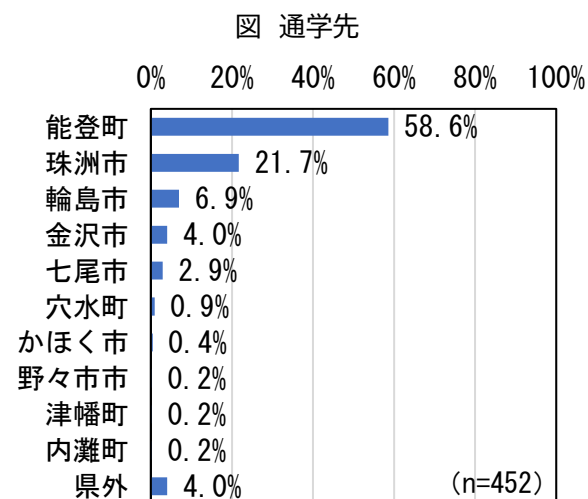


出典：能登町観光マスタープラン

4. 町民の移動状況と意向

4-1 通勤・通学の移動実態

- ・町内居住者の通学先は、能登町内が 58.6%、次いで珠洲市が 21.7%、輪島市が 6.9%となっています。
- ・町内居住者の通勤先は、能登町内が 75.2%、次いで珠洲市が 9.6%、輪島市が 5.0%となっています。



出典：R2 国勢調査

4-2 観光客の移動

- ・地域公共交通を利用する観光客はほとんどおらず、自家用車やレンタカーでの観光がほとんどです。
- ・レンタカーを利用して町内宿泊施設に宿泊した人を対象に、「能登町観光誘客促進レンタカー利用者宿泊助成金」による支援を行っています。
- ・外国人観光客は電車での移動が多く、金沢市から七尾市までの移動は比較的容易ですが、電車での移動ができない金沢市から奥能登地域への移動手段の確保が必要とされています。

※関係機関ヒアリング調査より(令和4年9月実施)(詳細はP11に掲載)

4-3 町民アンケート結果

(1) 調査概要

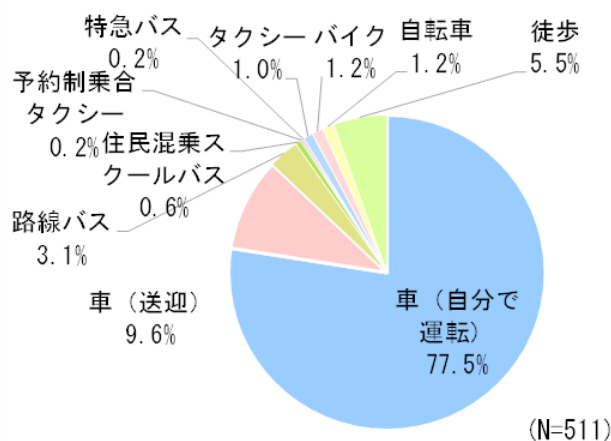
調査目的	町民の移動実態、移動に関するニーズの把握
調査対象	能登町民(16 歳以上)
調査方法	郵送配布・郵送回収による回答
対象者数	1,000 人
対象者の抽出	地区別に配布数を人口規模において配分し抽出(令和 4 年7月31日時点) ※無作為抽出
調査期間	調査票の配布 令和 4 年 8 月29日(月) 調査票の回収 令和 4 年 9 月 11 日(日)
配布・回収数	配布数 1,000 票 回収数 527 票 回収率 52.7%

(2) 調査結果

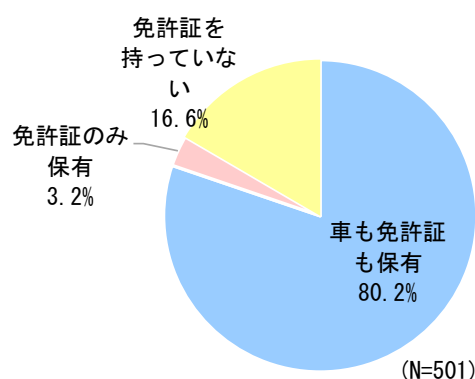
① 主な交通手段と自由に使える車・運転免許証

- ・自分で車を運転する方が約 8 割を占めて最も多く、次いで車で送迎してもらう方が約 1 割を占めます。地域公共交通の割合は約 1 割と低くなっています。
- ・車と運転免許証の両方を保有している方が約 8 割を占め、運転免許証を持っていない、運転免許証のみ持っている方は約 2 割となっています。

図表 主な交通手段



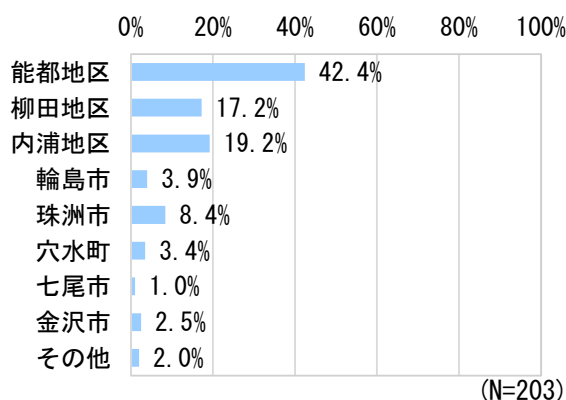
図表 自由に使える車・運転免許証



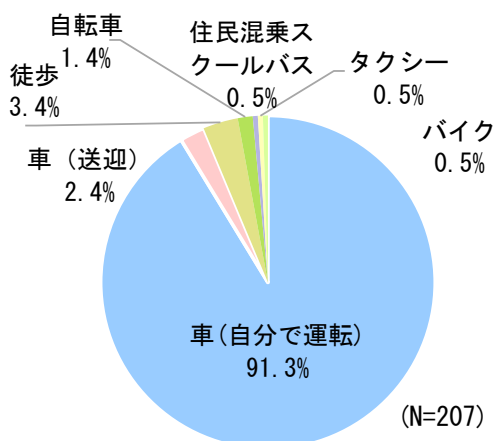
② 通勤移動

- ・能都地区に約 4 割が通勤しています。9 割以上の方が、自分で車を運転して通勤しています。

図表 通勤先



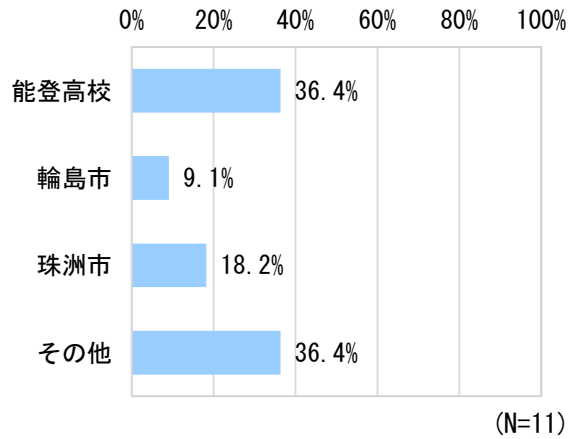
図表 通勤時交通手段



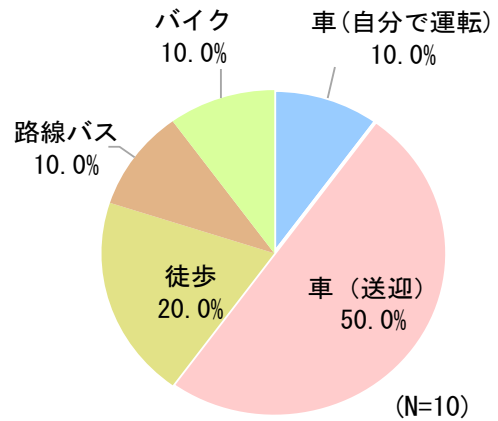
③ 通学移動

・能登高校と珠洲市に通学の方が 5 割以上となっています。半数が、送迎によって通学しています。

図表 通学先



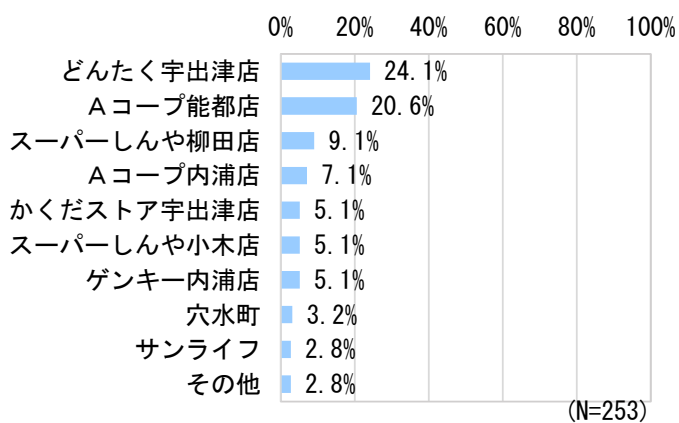
図表 通学時交通手段



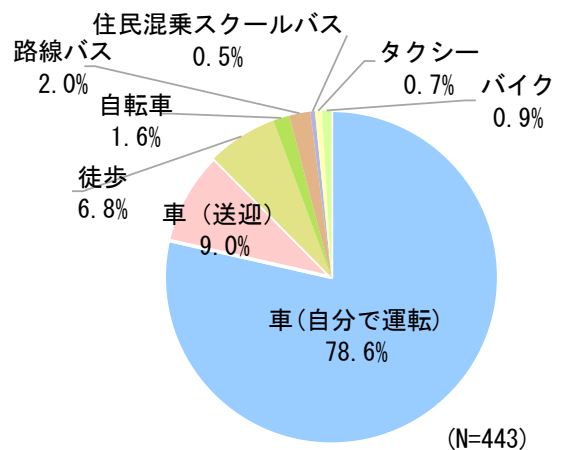
④ 買物移動

・「どんたく宇出津店」「A コープ能都店」に買物の方が 4 割を占めて多くなっています。約 8 割が、自分で車を運転して買物しています。次いで、送迎が約 1 割を占めます。

図表 買物先



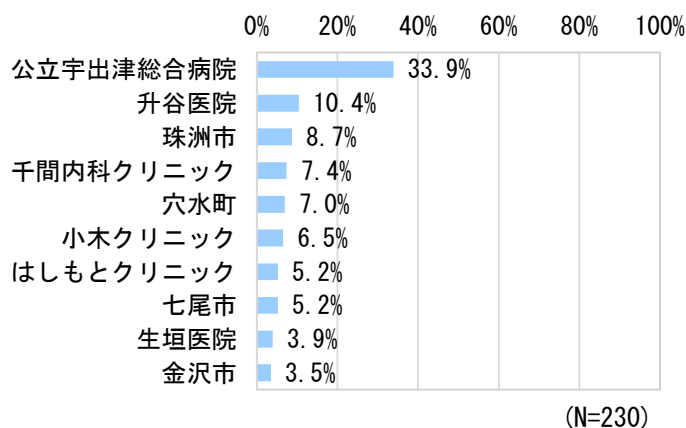
図表 買物時交通手段



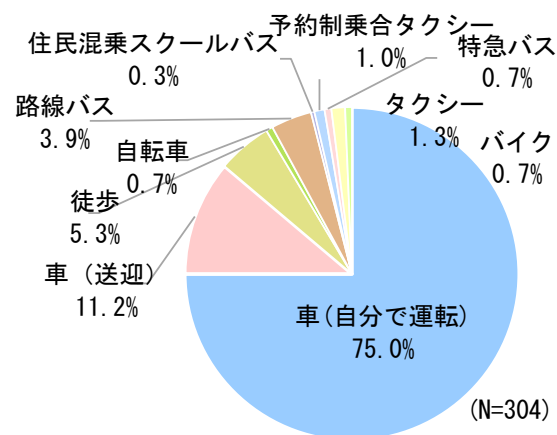
⑤ 通院移動

・「公立宇出津総合病院」に通院する方が最も多く約3割を占めています。珠洲市、穴水町に通院される方も、比較的多くなっています。約 8 割が、自分で車を運転して通院しています。次いで、送迎が約 1 割を占めています。

図表 通院先



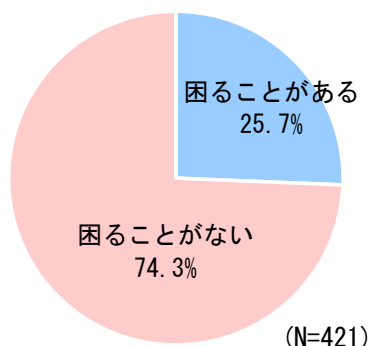
図表 通院時交通手段



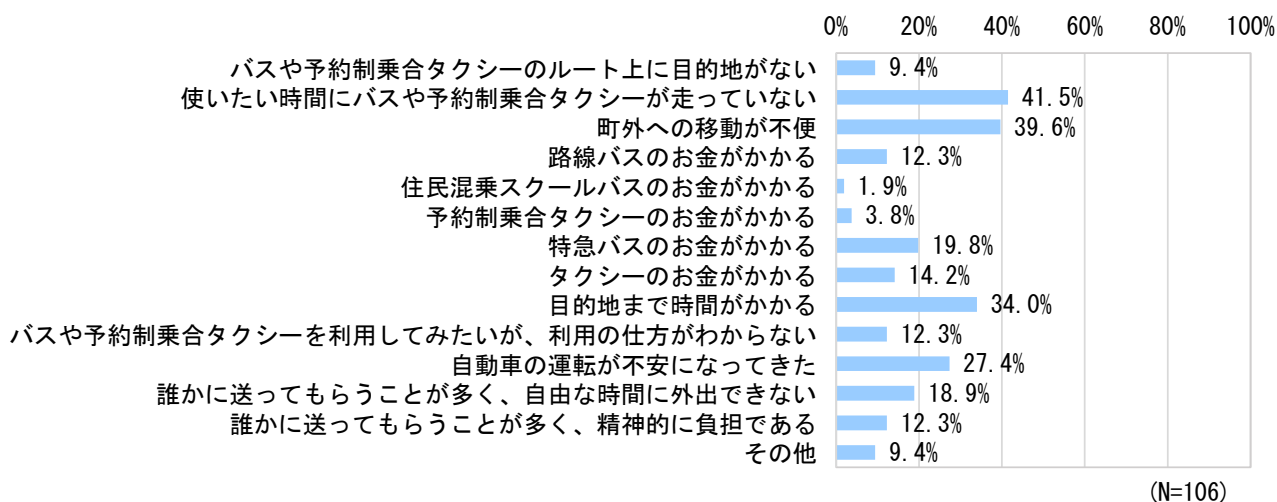
⑥ 困りごと

・移動の際に困ることがある方は約 3 割を占めます。「使いたい時間にバスや予約制乗合タクシーが走っていない」と回答した方が最も多くなっています。次いで、「町外への移動が不便」、「目的地までの時間がかかる」「自動車の運転が不安になってきた」という回答が多くなっています。

図表 移動の際の困りごとの有無



図表 移動の際の困りごと(複数回答可)



5. 地域公共交通の現況

5-1 関係機関ヒアリング調査実施概要

・ヒアリング調査対象者とヒアリング項目は以下のとおりです。公共交通の利用者層や利用の特徴、課題や改善点等について、令和4年9月にヒアリング調査を実施しました。

図表 関係機関ヒアリング調査実施概要

分類	対象者	ヒアリング項目
交通事業者	北鉄奥能登バス 株式会社	・特急バス ・路線バス
	宇出津タクシー 株式会社	・予約制乗合タクシー
	有限会社 めだか交通	・観光客の移動
	株式会社 恋路観光バス	・路線バス
	有限会社 能登交通	・予約制乗合タクシー ・住民混乗スクールバス
	株式会社 柳田タクシー	・予約制乗合タクシー
医療福祉関係者	能登町健康福祉課	・高齢者の移動
	公立宇出津総合病院	・病院利用者の移動 ・予約制乗合タクシー
教育関係機関	能登高等学校	・スクールバス
	能登町教育委員会	・高校生の通学
観光関係者	能登町ふるさと振興課	・観光客の移動

5-2 町内の地域公共交通

- ・町内の地域公共交通は、北鉄奥能登バス(株)が特急バスと路線バス 3 路線を運行、(株)恋路観光バスが路線バス 1 路線を運行、(有)能登交通が町営の住民混乗スクールバスを運行、タクシー事業者(宇出津タクシー(株)、(株)柳田タクシー、(有)能登交通)が予約制乗合タクシーを運行しており、様々な交通手段が整備されています。
- ・特急バスは都市間の広域の移動、のと鉄道転換バスと町野線は地域間の移動、上曽又線とうちうら線、住民混乗スクールバス及び予約制乗合タクシーは町内の移動を担っています。
- ・なお、令和 4 年 3 月末には穴水町と宮地・鮭尾・太田原・柏木地区をつなぐ太田原線が廃止となり、今後他の路線も維持できなくなることが懸念されます。

図表 町内の地域公共交通

路線名		便数/日			車両	運賃	
		平日	土	日祝			
特急バス							
珠洲特急	金沢－柳田－内浦－珠洲	6 便	6 便	6 便	－	対距離制	
珠洲宇出津特急	金沢－柳田－宇出津－小木－松波－珠洲	4 便	4 便	4 便	－		
路線バス							
のと鉄道転換バス	穴水－宇出津－珠洲	65 便	54 便	39 便	－	対距離制	
町野線	宇出津－柳田－輪島	18 便	15 便	12 便	－		
上曽又線	宇出津－曽又	7 便	7 便	0 便	－		
うちうら線	駒渡ポケットパーク－松波－四方山	11 便	0 便	0 便	－	対距離制 中学生 100 円 小学生以下無料	
住民混乗スクールバス							
中斉線	中斉丑屋地－	笹ゆり荘	8 便	0 便	0 便	中型車	対距離制 100円～300 円 中学生以下無料
合鹿線	駒渡ポケットパーク－		9 便	0 便	0 便	マイクロバス	
久田線	桐畑－		9 便	0 便	0 便	マイクロバス	
柳田線	尻田谷内－		8 便	0 便	0 便	中型車	
金山十郎原線	金山－		8 便	0 便	0 便	マイクロバス	
予約制乗合タクシー（おでかけ便・おかえり便）							
上長尾・合鹿エリア	上長尾・合鹿エリア－	宇出津	5 便	0 便	0 便	小型 タクシー	700 円 小学生以下は 保護者同伴の 場合のみ無料
当日・柳田エリア	当日・柳田エリア－柳田総合支所前－		5 便	0 便	0 便		
柏木・中斉・宮地・鶴町エリア	柏木・中斉・宮地・鶴町エリア－		5 便	0 便	0 便		
瑞穂・鶴川エリア	瑞穂・鶴川エリア－		5 便	0 便	0 便		
真脇・小木・白丸エリア	真脇・小木・白丸エリア－		5 便	0 便	0 便		
不動寺・松波エリア	不動寺・松波エリア－		5 便	0 便	0 便		
タクシー		3 事業者					
のと里山空港ふるさとタクシー（予約制）							
のと里山空港－能登町		ジャンボタクシー				片道 900 円	
のと里山空港－能登町(内浦地区)						片道 1,300 円	

図表 町内の地域公共交通ネットワーク図

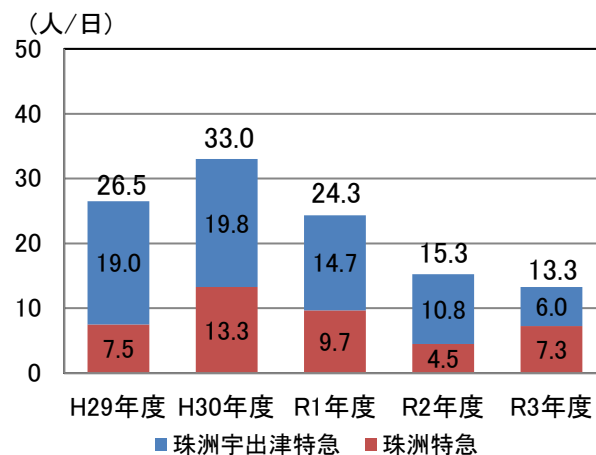


5-3 路線バスの現況

(1) 特急バス

運行便数	①珠洲宇出津特急 : 平日 6 便、土 6 便、日祝 6 便 ②珠洲特急 : 平日 4 便、土 4 便、日祝 4 便
利用者数 (R3・上下計)	①珠洲宇出津特急 : 6.0 人／日 ②珠洲特急 : 7.3 人／日
利用特性	利用者数は減少傾向にあり、令和3年度には珠洲宇出津特急、珠洲特急ともに1日あたりの利用者数は10人未満となっています。 ・利用者数は平成 30 年度までは増加傾向にありましたが、令和元年度に減少に転じ、令和 3 年度の1日あたりの利用者数は珠洲宇出津特急は 6.0 人、珠洲特急は 7.3 人となっています。 【関係機関ヒアリングより】 ・各地域居住者の特急バスの乗降場所は以下の傾向があると考えられます。 松波地区: 柳田天坂、内浦駒渡 宇出津地区: 柳田天坂 鵜川地区: 穴水此の木
改善点	【関係機関ヒアリングより】 ・特急バスの運転手不足は深刻であり、今後、特急バスの便数を維持できなくなることが懸念されます。運転手不足に向けた対応策を検討していく必要があります。 ・珠洲特急は小木地区と鵜川・瑞穂地区の連結がされていません。珠洲道路との連結が可能であれば、より利用されると考えられます。

図表 特急バスの利用者推移



出典:北鉄奥能登バス(株)

① 珠洲宇出津特急

主に金沢医科大学病院への通院で利用されています。

- ・上りの 1 便目の利用者は、主に「医大病院」と「金沢駅西口」で降車しています。
- ・上りの 2 便目は穴水駅前までの運行便で、1 便目と比べて利用者数は 1.5 人と少なくなっています。これは、珠洲宇出津特急は主に金沢医科大学病院への通院が目的で利用される路線のためだと考えられます。(関係機関ヒアリングより)
- ・上りの 2 便目の輪島特急への乗継はおよそ 3 人／便になります。(関係機関ヒアリングより)
- ・他の路線には同区間における 10 時台のバスがなく、一方で運賃は同じであるため、特急バスを路線バスのように利用する方もみられます。(関係機関ヒアリングより)

図表 珠洲宇出津特急 ルート図



図表 珠洲宇出津特急 便別バス停別利用者数(令和 3 年度・平日)

	上り					
	1便(06:50)		2便(12:10)		計	
	利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)	
	乗	降	乗	降	乗	降
すずなり館前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
珠洲市役所前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
南鶴飼	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
本鶴島	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
恋路浜	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内浦総合支所前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
能登宮崎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
越坂	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
九十九湾	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
小木港	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
縄文真脇温泉口	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0
本小浦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
羽根漁港	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
遠島山公園下	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
いやさか広場前	0.5	0.0	0.5	0.0	1.0	0.0
能登町役場前	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0
長坂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
上町	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
柳田天坂	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0
寺分	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
桜峠	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
のと里山空港	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0
精育園前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
穴水此の木	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
穴水駅前	0.5	0.5	0.0	0.5	0.5	1.0
西山PA	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0
医大病院	0.5	2.5	-	-	0.5	2.5
向陽台	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0
戸水西	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0
中央病院	0.5	0.5	-	-	0.5	0.5
駅西合同庁舎前	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0
金沢駅西口	0.0	2.5	-	-	0.0	2.5
計	6.0	6.0	1.5	1.5	7.5	7.5

	下り					
	1便(09:15)		2便(16:00)		計	
	利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)	
	乗	降	乗	降	乗	降
金沢駅西口	-	-	4.0	0.0	4.0	0.0
駅西合同庁舎前	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0
中央病院	-	-	0.0	1.0	0.0	1.0
県庁前	-	-	1.0	0.5	1.0	0.5
戸水西	-	-	0.0	0.5	0.0	0.5
向陽台	-	-	0.0	0.5	0.0	0.5
医大病院	-	-	1.5	1.0	1.5	1.0
西山PA	-	-	0.0	0.0	0.0	0.0
穴水駅前	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0	1.0
穴水此の木	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0
精育園前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
のと里山空港	2.0	0.0	0.0	1.0	2.0	1.0
桜峠	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
寺分	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
柳田天坂	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5
上町	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5
長坂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
能登町役場前	2.5	0.5	0.0	0.0	2.5	0.5
いやさか広場前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
遠島山公園下	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
羽根漁港	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5
本小浦	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
縄文真脇温泉口	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	1.0
小木港	0.0	2.0	0.0	0.0	0.0	2.0
九十九湾	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0
越坂	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
能登宮崎	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内浦総合支所前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
恋路浜	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
本鶴島	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
南鶴飼	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0
珠洲市役所前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
すずなり館前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
計	5.5	5.5	7.0	7.0	12.5	12.5

※ :能登町内バス停、:乗車人数 2 人以上、:降車人数 2 人以上、:便計が 10 人以上

出典:北鉄奥能登バス(株)

② 珠洲特急

珠洲や金沢への移動で利用されています。うちうら線への乗継が可能です。

- ・上りの便は計 35.5 人、下りの便は計 29.0 人と上りの便の方が利用されています。
- ・上りの朝の 1 便目と 2 便目がそれぞれ 12.0 人、16.0 人、下りの昼間の 2 便目が 17.5 人と利用が多い傾向にあります。
- ・上りは「すずなり館前」で乗車し、「金沢駅西口」で降車しています。同じく下りも「金沢駅西口」で乗車し、「すずなり館前」で降車しています。
- ・能登町内のバス停は、「内浦駒渡」、「柳田植物公園口」、「柳田天坂」、「寺分」、「桜峠」の 5 箇所になります。中でも「柳田天坂」が比較的に利用されています。
- ・「内浦駒渡」でうちうら線への乗継ができます。およそ 1～2 人／便が乗り継いでいます。(関係機関ヒアリングより)

図表 珠洲特急 ルート図



図表 珠洲特急 便別バス停別利用者数(令和 3 年度・平日)

	上り							
	1便(06:20)		2便(07:50)		3便(13:20)		計	
	利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)	
	乗	降	乗	降	乗	降	乗	降
珠洲鉢ヶ崎	-	-	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0
弁天公園前	-	-	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0
正院	-	-	0.0	0.0	-	-	0.0	0.0
すずなり館前	4.0	0.0	3.0	0.0	2.5	0.0	9.5	0.0
珠洲市役所前	0.0	0.0	3.5	0.0	0.0	0.0	3.5	0.0
上戸	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
珠洲鵜飼	1.5	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0
鵜島	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
内浦駒渡	1.5	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0
柳田植物公園口	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
柳田天坂	2.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	3.0	0.0
寺分	0.0	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.0	2.5
桜峠	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
のと里山空港	1.0	0.0	1.0	4.0	0.0	0.0	2.0	4.0
精育園前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0
穴水此の木	0.0	1.0	0.5	0.0	0.0	0.5	0.5	1.5
穴水駅前	0.5	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.5
西山PA	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
医大病院	0.0	3.5	2.5	3.0	2.0	0.0	4.5	6.5
向陽台	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
戸水西	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0
中央病院	0.0	1.0	0.0	1.0	0.5	0.5	0.5	2.5
駅西合同庁舎前	0.5	0.5	2.5	0.0	1.0	0.0	4.0	0.5
駅西口降車	0.0	5.5	0.0	5.5	0.0	6.5	0.0	17.5
計	12.0	12.0	16.0	16.0	7.5	7.5	35.5	35.5

	下り							
	1便(10:40)		2便(14:20)		3便(17:30)		計	
	利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)		利用者数(平日平均)	
	乗	降	乗	降	乗	降	乗	降
金沢駅西口【7】	4.0	0.0	3.5	0.0	3.0	0.0	10.5	0.0
駅西合同庁舎前	0.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0
中央病院	0.0	0.0	1.5	0.0	0.5	0.0	2.0	0.0
県庁前②	0.0	0.0	1.0	0.0	0.5	0.0	1.5	0.0
戸水西	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5	0.0	1.0
向陽台	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.5
医大病院	0.0	0.5	5.5	0.5	0.0	0.5	5.5	1.5
西山PA	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
穴水駅前	0.5	0.0	1.5	0.5	0.0	0.5	2.0	1.0
穴水此の木	0.0	0.0	1.5	0.5	0.0	0.0	1.5	0.5
精育園前	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
のと里山空港	0.0	0.0	0.5	0.0	1.0	0.0	1.5	0.0
桜峠	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
寺分	0.0	0.0	2.5	1.0	0.0	0.0	2.5	1.0
柳田天坂	0.5	0.0	0.0	2.5	0.0	0.0	0.5	2.5
柳田植物公園口	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
内浦駒渡	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.0	1.5
鵜島	0.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0	0.0	0.5
珠洲鵜飼	0.0	0.0	0.0	2.0	0.0	1.0	0.0	3.0
上戸	1.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	1.0	1.0
珠洲市役所前	0.0	0.0	0.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0
すずなり館前	0.0	6.0	0.0	6.0	0.0	2.0	0.0	14.0
計	6.5	6.5	17.5	17.5	5.0	5.0	29.0	29.0

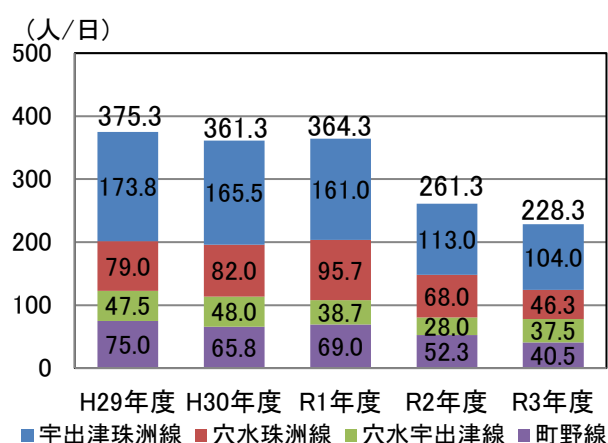
※ 能登町内バス停、乗車人数 2 人以上、降車人数 2 人以上、便計が 10 人以上

出典:北鉄奥能登バス(株)

(2) 路線バス（地域間幹線）

運行便数	①のと鉄道転換バス : 平日 65 便、土 54 便、日祝 39 便 ②町野線 : 平日 18 便、土 15 便、日祝 12 便
利用者数 (R3・上下計)	①のと鉄道転換バス : (宇出津珠洲線) 104.0 人/日 (穴水珠洲線) 46.3 人/日 (穴水宇出津線) 37.5 人/日 ②町野線 : 40.5 人/日
利用特性	利用者数は減少傾向にあります。近隣市町への交通を担う、のと鉄道転換バスや町野線の令和 3 年度の 1 日あたりの利用者数は 228 人となっています。 ・利用者数は、どの路線も減少しています。のと鉄道転換バスの中では宇出津珠洲線の利用者数が最も多く、令和 3 年度の 1 日あたりの利用者数は 104 人になります。町野線の令和 3 年度の 1 日あたりの利用者数は約 40 人になります。 【関係機関ヒアリングより】 ・のと鉄道転換バスは、主に能登高校、飯田高校への通学で利用されています。 ・町野線は、主に能登高校、輪島高校への通学で利用されています。
改善点	【関係機関ヒアリングより】 ・珠洲市方面や輪島市方面の路線バスの本数を増やしてほしいといった要望がみられます。 ・下校時間帯に能登高校南発のバスがないため利用しにくいといった意見があります。

図表 のと鉄道転換バス・町野線の利用者数推移



出典:北鉄奥能登バス(株)

① 宇出津珠洲線（のと鉄道転換バス）

1日あたりの利用者数は104人となっています。能登高校・飯田高校への通学で利用されています。

- ・宇出津珠洲線 A は松波、小木、宇出津地区を運行、宇出津珠洲線 B は松波、宇出津地区を運行、宇出津珠洲線 C は柳田、宇出津、鶴川地区を運行しています。
- ・上り(能登高校方面)と下り(飯田高校方面)の朝と夕方の便の利用者数は 10 人以上です。宇出津珠洲線 C の上りの 19 時台の便(飯田高校下→鶴川駅前)が 22.0 人と最も利用されています。

図表 宇出津珠洲線 便別利用者数(令和3年度・平日)

宇出津 珠洲線A	上り（珠洲鉢ヶ崎→能登高校南）									下り（能登高校南→すずなり館前）							
	1便 (07:03)	2便 (07:30)	3便 (11:40)	4便 (13:15)	5便 (15:00)	6便 (16:35)	7便 (17:30)	8便 (18:35)	9便 (19:05)	1便 (06:42)	2便 (07:53)	3便 (08:50)	4便 (10:45)	5便 (15:25)	6便 (17:05)	7便 (18:15)	8便 (19:05)
	9.5	14.0	8.5	2.5	5.0	16.0	9.0	6.5	17.5	20.5	7.0	10.5	7.5	20.0	11.0	5.5	4.5
宇出津 珠洲線B	上り（珠洲鉢ヶ崎→能登高校南）									下り（能登高校南→珠洲鉢ヶ崎）							
	1便 (06:56)	2便 (16:00)								1便 (07:02)	2便 (14:00)	3便 (17:50)					
	17.5	1.5								20.5	1.5	7.5					
宇出津 珠洲線C	上り（飯田高校下→鶴川駅前）									下り（能登町役場前→飯田高校下）							
	1便 (18:30)	2便 (19:06)								1便 (07:19)	2便 (07:21)						
	15.0	22.0								16.0	18.0						

※■:便計が10人以上

出典:北鉄奥能登バス(株)

図表 宇出津珠洲線 A ルート図



図表 宇出津珠洲線 B ルート図



図表 宇出津珠洲線 C ルート図



② 穴水珠洲線（のと鉄道転換バス）

能登町内から飯田高校下行きの朝の便の利用者数が 18.5 人と最も多くなっています。

・穴水珠洲線 A は松波、小木、宇出津、鵜川地区を運行、穴水珠洲線 B は松波、宇出津、鵜川、瑞穂地区を運行、穴水珠洲線 C は松波、小木、宇出津、鵜川、瑞穂地区を運行しており、のと鉄道転換バスの中では唯一秋吉地区を経由します。

・穴水珠洲線 C の下りの朝の便(能登瑞穂→飯田高校下)が 18.5 人と最も利用されています。

図表 穴水珠洲線 便別利用者数(令和 3 年度・平日)

穴水 珠洲線A	上り（すずなり館前→穴水総合病院）				下り（穴水総合病院→すずなり館前）			
	1便 (10:00)				1便 (11:30)			
	10.5				15.0			
穴水 珠洲線B	上り（すずなり館前→穴水総合病院）				下り（穴水総合病院→飯田高校下）			
	1便 (09:00)	2便 (13:00)			1便 (08:35)	2便 (10:19)	3便 (17:24)	
	5.5	5.0			3.0	9.0	11.5	
穴水 珠洲線C	上り（松波城址公園口→穴水駅前）				下り（能登瑞穂→飯田高校下）			
	1便 (06:55)				1便 (06:34)			
	11.5				18.5			

※ ■:便計が 10 人以上

出典:北鉄奥能登バス(株)

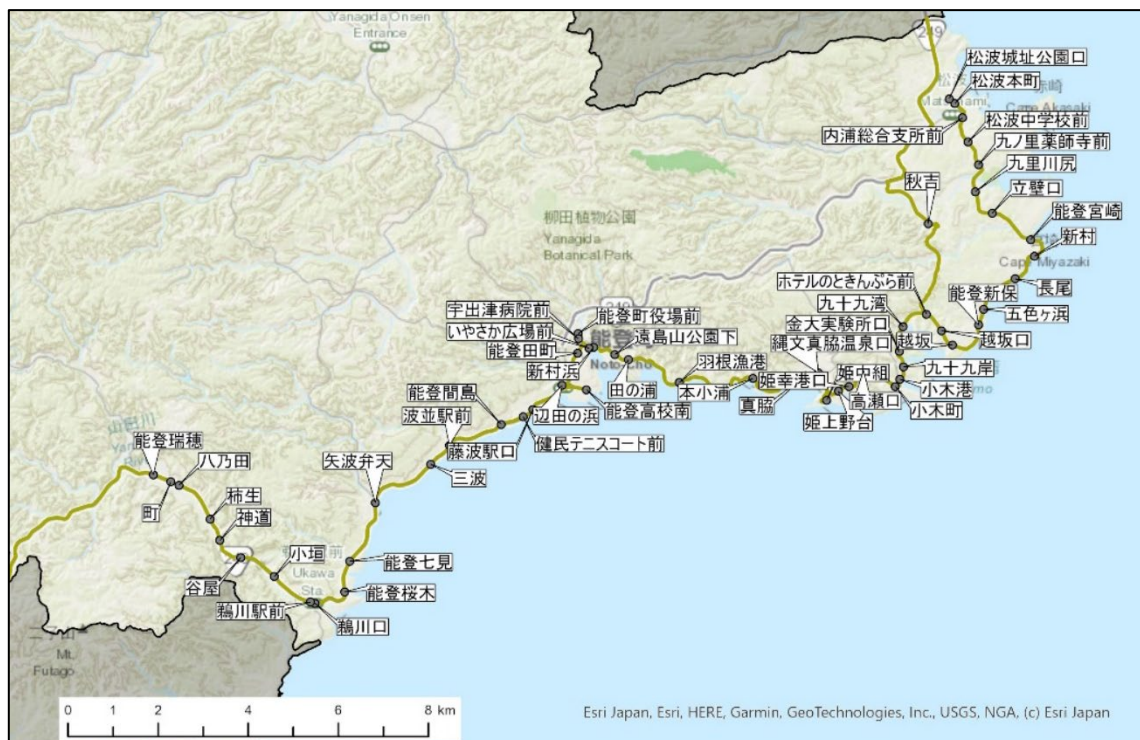
図表 穴水珠洲線 A ルート図



図表 穴水珠洲線 B ルート図



図表 穴水珠洲線 C ルート図



③ 穴水宇出津線（のと鉄道転換バス）

能登町内区間での乗降が多く、穴水町への移動ではほとんど利用されていません。

- ・穴水宇出津線 A は鵜川駅前のみ運行、穴水宇出津線 B は宇出津、鵜川地区を運行、穴水宇出津線 C は宇出津、鵜川、瑞穂地区を運行しています。
- ・穴水宇出津線 C の下り朝の便(穴水駅前→能登町役場前)の利用者数が 15.0 人と最も多く、その他の便は利用者数が 10 人未満となっています。

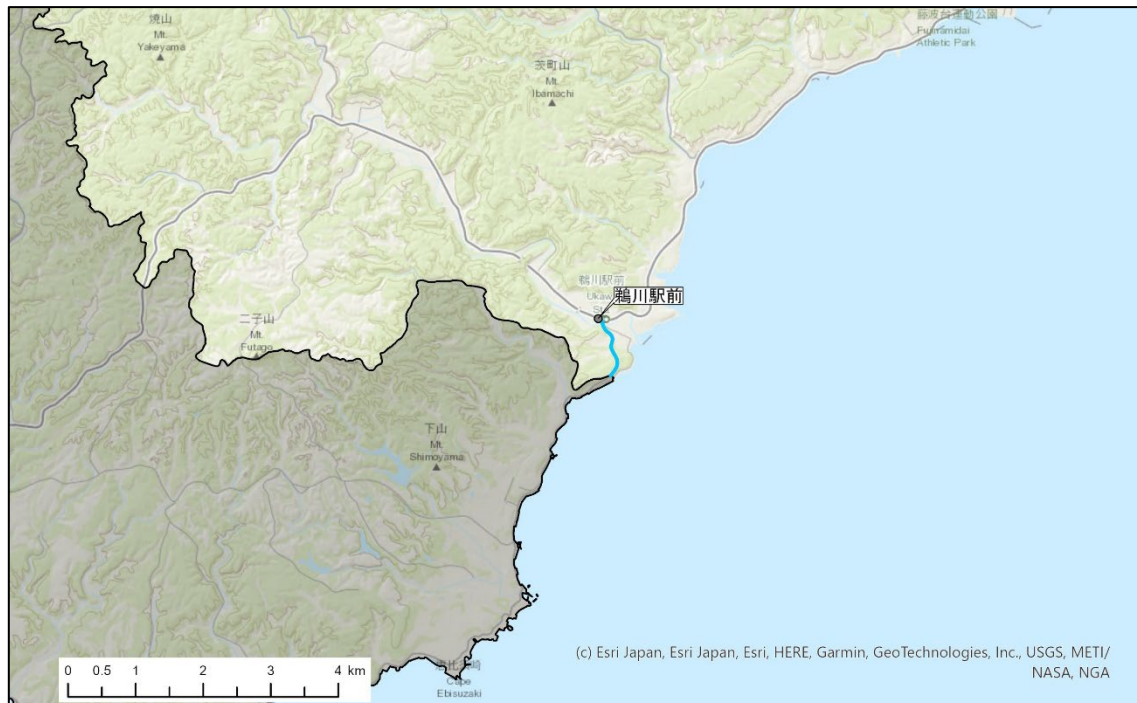
図表 穴水宇出津線 便別利用者数(令和 3 年度・平日)

穴水 宇出津線A	上り（鵜川駅前→穴水総合病院）						下り（R3年度データなし）					
	1便 (07:10)											
	8.0											
穴水 宇出津線B	上り（能登町役場前→穴水総合病院）						下り（穴水総合病院→能登町役場前）					
	1便 (07:23)	2便 (10:00)	3便 (12:28)	4便 (14:45)	5便 (16:35)	6便 (18:10)	1便 (06:40)	2便 (09:05)	3便 (12:23)	4便 (15:24)	5便 (16:44)	6便 (18:40)
	4.5	3.5	6.5	7.5	6.5	7.5	9.0	3.5	7.0	8.0	5.0	9.0
穴水 宇出津線C	上り（能登町役場前→穴水総合病院）						下り（穴水総合病院→能登町役場前）					
	1便 (18:30)	2便 (19:06)					1便 (06:42)	2便 (16:34)				
	5.5	1.5					15.0	1.5				

※ ■:便計が 10 人以上

出典:北鉄奥能登バス(株)

図表 穴水宇出津線 A ルート図



図表 穴水宇出津線 B ルート図



図表 穴水宇出津線 C ルート図



④ 町野線

朝と夕方の便の利用が最も多く、1 便あたり 20 人以上となっています。能登高校、輪島高校への通学で利用されています。

- ・上りの朝の便と下りの夕方の便の利用が多く、上りと下りどちらも 1 便目の利用者が 20 人以上と最も利用されています。一方で、昼間の時間帯の利用は 1 便あたり 10 人未満となっています。
- ・下りの朝の便と上りの夕方の便は「能登高校南」、上りの朝の便と下りの夕方の便は「輪島駅前」で乗降が多いです。これは能登高校と輪島高校への通学で利用しているためだと考えられます。
- ・上りの 2 便目と下りの 6 便目で「上町公民館」と「柳田」での乗降がみられます。これは柳田小学校の児童が通学利用しているためだと考えられます。(関係機関ヒアリングより)
- ・上りの 6 便目は能登高校南発ではないため、生徒が乗り遅れることがあります。16 時台のバスを増便もしくは能登高校南発の便にしてほしいといった要望がみられます。(関係機関ヒアリングより)

図表 町野線 ルート図



図表 町野線 便別利用者数(令和 3 年度・平日)

町野線	上り（能登高校南→市立輪島病院）									下り（市立輪島病院→能登高校南）								
	1便 (06:55)	2便 (07:20)	3便 (09:10)	4便 (11:00)	5便 (13:50)	6便 (16:05)	7便 (17:45)	8便 (18:20)	9便 (19:30)	1便 (07:12)	2便 (07:15)	3便 (09:10)	4便 (12:20)	5便 (14:00)	6便 (16:25)	7便 (16:45)	8便 (18:00)	9便 (19:15)
	24.0	22.5	10.5	2.5	6.0	4.5	6.5	3.5	7.5	24.5	11.5	2.5	8.5	7.0	4.5	12.0	7.5	2.5

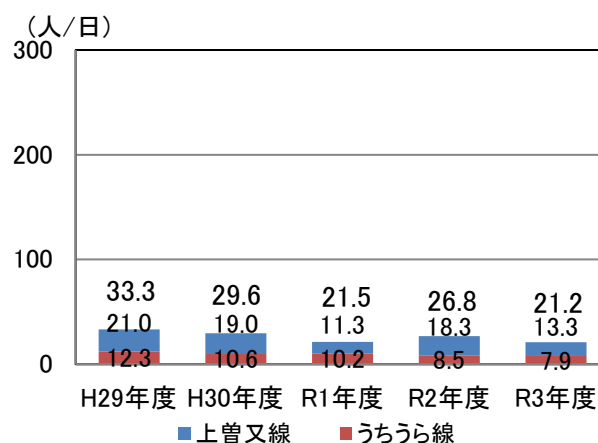
※■:便計が10人以上

出典:北鉄奥能登バス(株)

(3) 路線バス（支線）

運行便数	①上曽又線 : 平日 7 便、土 7 便 ②うちうら線 : 平日 11 便
利用者数 (R3・上下計)	①上曽又線 : 13.3 人／日 ②うちうら線 : 7.9 人／日
利用特性	利用者数は減少傾向にあります。令和 3 年度の 1 日あたりの利用者数は、地域内の交通を担う上曽又線やうちうら線は計 20 人程度となっています。 ・令和 3 年度の 1 日あたりの利用者数は、上曽又線は約 13 人、うちうら線は約 8 人と 10 人未満となっています。 【関係機関ヒアリングより】 ・上曽又線は、主に能都中学校の生徒が通学で利用しています。 ・うちうら線は、高齢者の利用がほとんどになります。買物、銀行、郵便局へ行くために利用しています。
改善点	【関係機関ヒアリングより】 ・帰りのバスまで 2 時間待つ必要があり不便です。 ・車両の小型化をする等、利用者数に合わせた対応をしていく必要があります。

図表 上曽又線・うちうら線の利用者数推移



出典：北鉄奥能登バス(株)・(株)恋路観光バス

① 上曽又線

利用者は1便あたり10人未満となっています。主に能都中学校の生徒が通学で利用しています。

- ・令和5年3月で運行が廃止されます。
- ・上りも下りも、どの時間帯も利用者は1便あたり10人未満となっています。
- ・上りの1便目の利用者は8.0人と比較利用されていますが、その他の便の利用者は1便あたり5人未満となっています。
- ・主に能都中学校の生徒と高校生が通学で利用しています。(関係機関ヒアリングより)

図表 上曽又線 ルート図



図表 上曽又線 便別利用者数(令和3年度・平日)

上曽又線	上り (上曽又→能登高校南)			下り (能登高校南→上曽又)			
	1便 (07:10)	2便 (12:20)	3便 (14:00)	1便 (11:45)	2便 (13:20)	3便 (17:00)	4便 (18:30)
	8.0	0.5	1.0	1.0	1.0	3.0	1.5

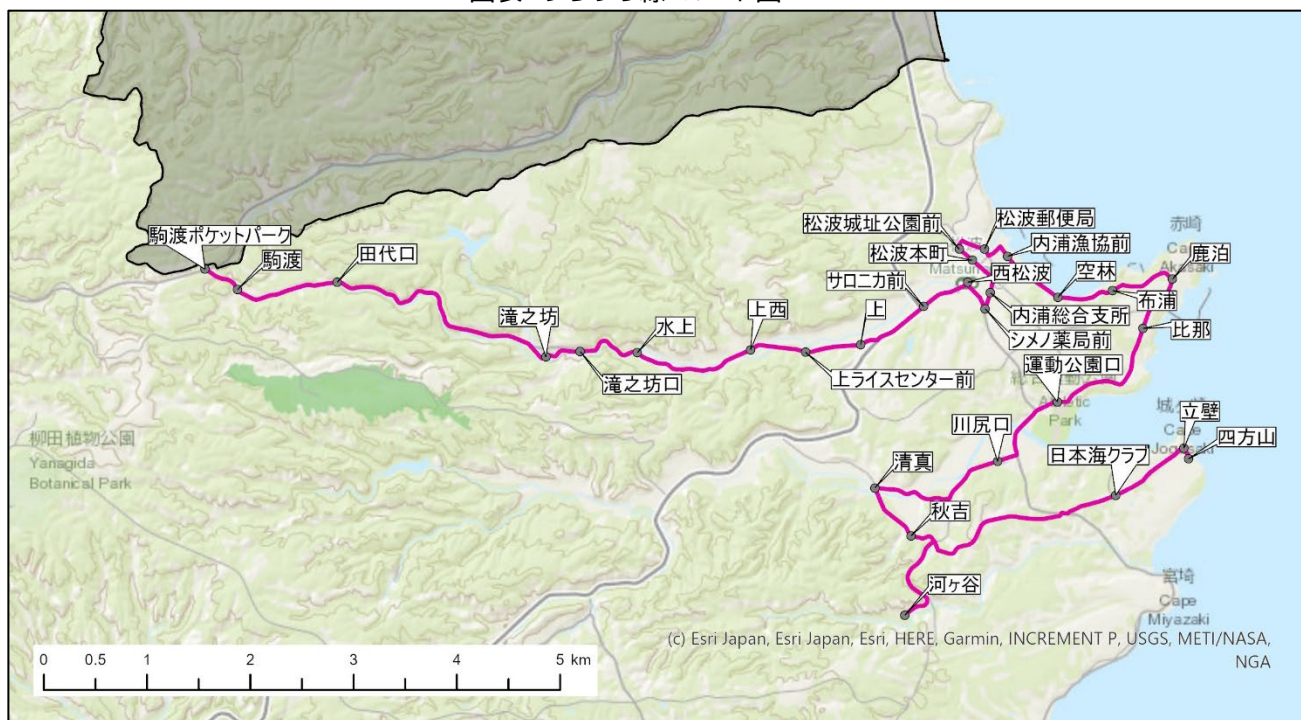
出典:北鉄奥能登バス(株)

② うちうら線

利用者は 1 日あたり 10 人未満となっています。高齢者が買物や郵便局への移動で利用しています。

- ・1 日あたりの利用者は減少傾向にあり、令和 2 年度以降は 1 日あたり 10 人未満となっています。
- ・上りの 3 便目の利用者は 2.2 人と最も利用されています。他の路線と比べて朝や夕方の便でなく、昼間の時間帯の利用が多いのは、主に買物や銀行、郵便局への移動で利用されているためだと考えられます。(関係機関ヒアリングより)
- ・上りの 1 便目、2 便目と下りの 5 便目は特急バスとの乗継が可能です。(関係機関ヒアリングより)

図表 うちうら線 ルート図



図表 うちうら線 便別利用者数(令和 3 年度・平日)

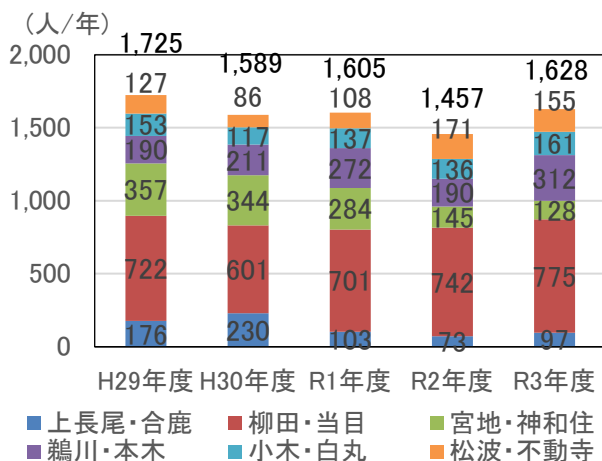
うちうら線	上り (四方山→駒渡ポケットパーク)						下り (駒渡ポケットパーク→四方山)					
	1便 (06:20)	2便 (07:30)	3便 (10:00)	4便 (11:45)	5便 (13:00)	6便 (16:50)	1便 (06:50)	2便 (08:45)	3便 (12:05)	4便 (15:30)	5便 (17:15)	
	0.2	1.8	2.2	0.1	0.9	0.1	0.0	0.6	0.4	1.4	0.0	

出典: (株)恋路観光バス

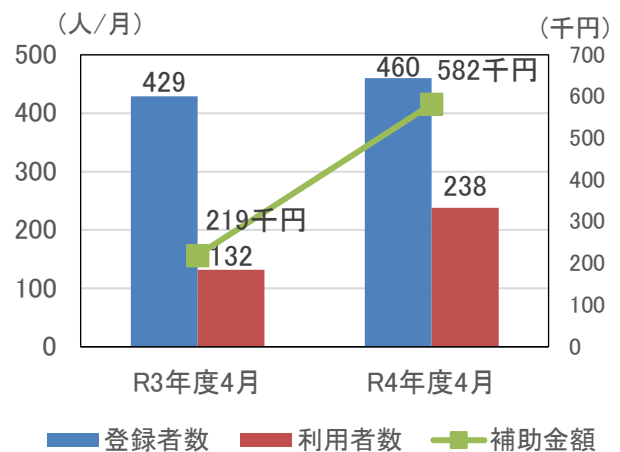
5-4 予約制乗合タクシーの現況

運行便数	各エリア：平日 5 便
利用者数 (R3平日・上下計)	上長尾・合鹿エリア：97 人／年 当目・柳田エリア：775 人／年 柏木・中斉・宮地・鶴町エリア：128 人／年 瑞穂・鶴川エリア：312 人／年 真脇・小木・白丸エリア：161 人／年 不動寺・松波エリア：155 人／年
利用特性	<u>令和 3 年度は年間約 1,600 人以上が利用しています。利用料金見直しにより、令和 4 年度 4 月の利用者数は前年度同月と比べて約 1.8 倍に増加しました。利用者アンケートより、回答者の約 95% が利用料金一律 700 円に満足しています。</u> ・利用者数はやや減少傾向にありましたが令和 3 年度には増加に転じ、年間約 1,600 人以上が利用しています。柳田・当目エリアの利用者数が最も多く、令和 3 年度には年間約 770 人が利用しています。 ・令和 4 年度から利用料金一律 700 円に見直しを行い、登録者数、利用者数ともに増加し、ひと月あたりの利用者数は前年度同月と比べて約 1.8 倍の 238 人まで増加しました。一方、補助金額も 2 倍近く増加している状況にあります。 【関係機関ヒアリングより】 ・公立宇出津総合病院への通院で利用されています。70、80 代の高齢者、女性の利用が多い傾向にあります。 ・通院だけでなく、個人クリニックやスーパーに行くのに利用する人も多くみられます。その場合、公立宇出津総合病院到着後に、乗用タクシーへ切り替えて利用しています。
改善点	【関係機関ヒアリングより】 ・降車場所として個人クリニックも含めた方がよいと思われます。 ・予約していた人が時間になっても乗車場所に来ないことがあり、乗車場所を増やすのは難しいと考えられます。

図表 予約制乗合タクシーの利用者数推移

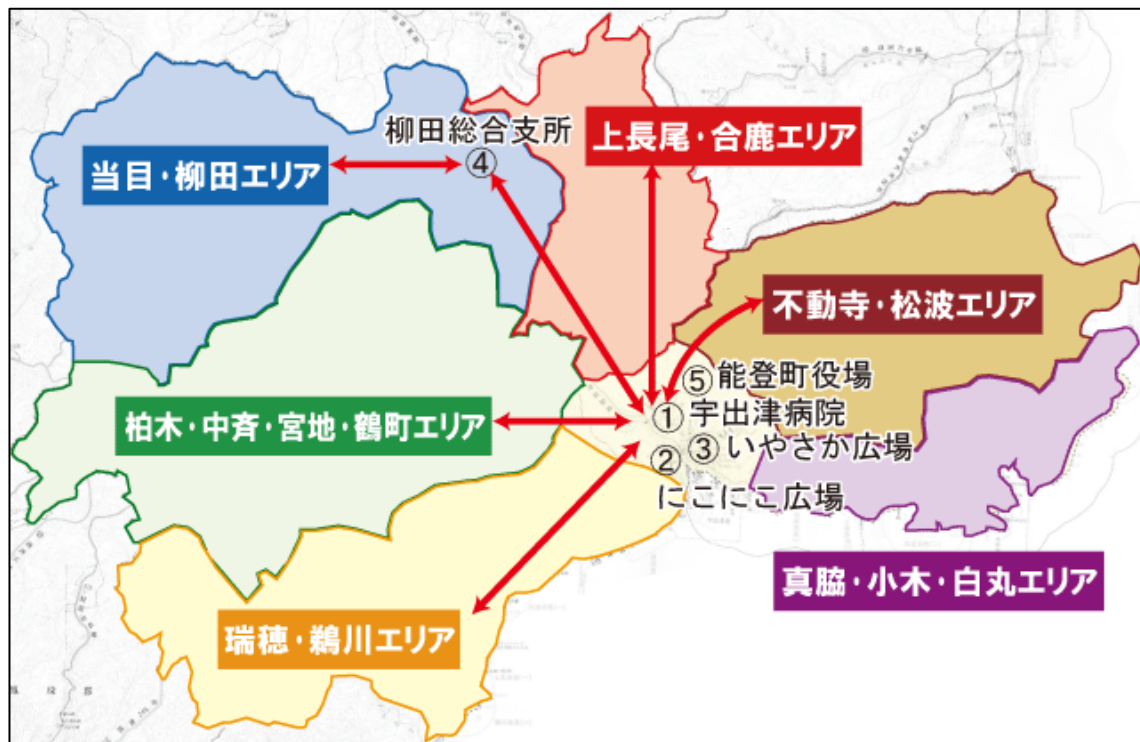


図表 予約制乗合タクシーの登録・利用者数と補助金額



出典:能登町

図表 予約制乗合タクシー ルート図



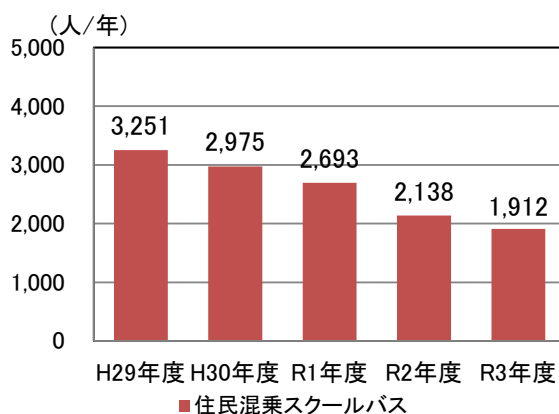
図表 予約制乗合タクシーアンケート結果 満足度の変化

	H29 年	R4 年	増減率
乗降場所	69.63%	81.82%	14.90%
運行時間	65.19%	75.75%	13.95%
利用料金	62.96%	94.95%	33.69%

5-5 住民混乗スクールバスの現況

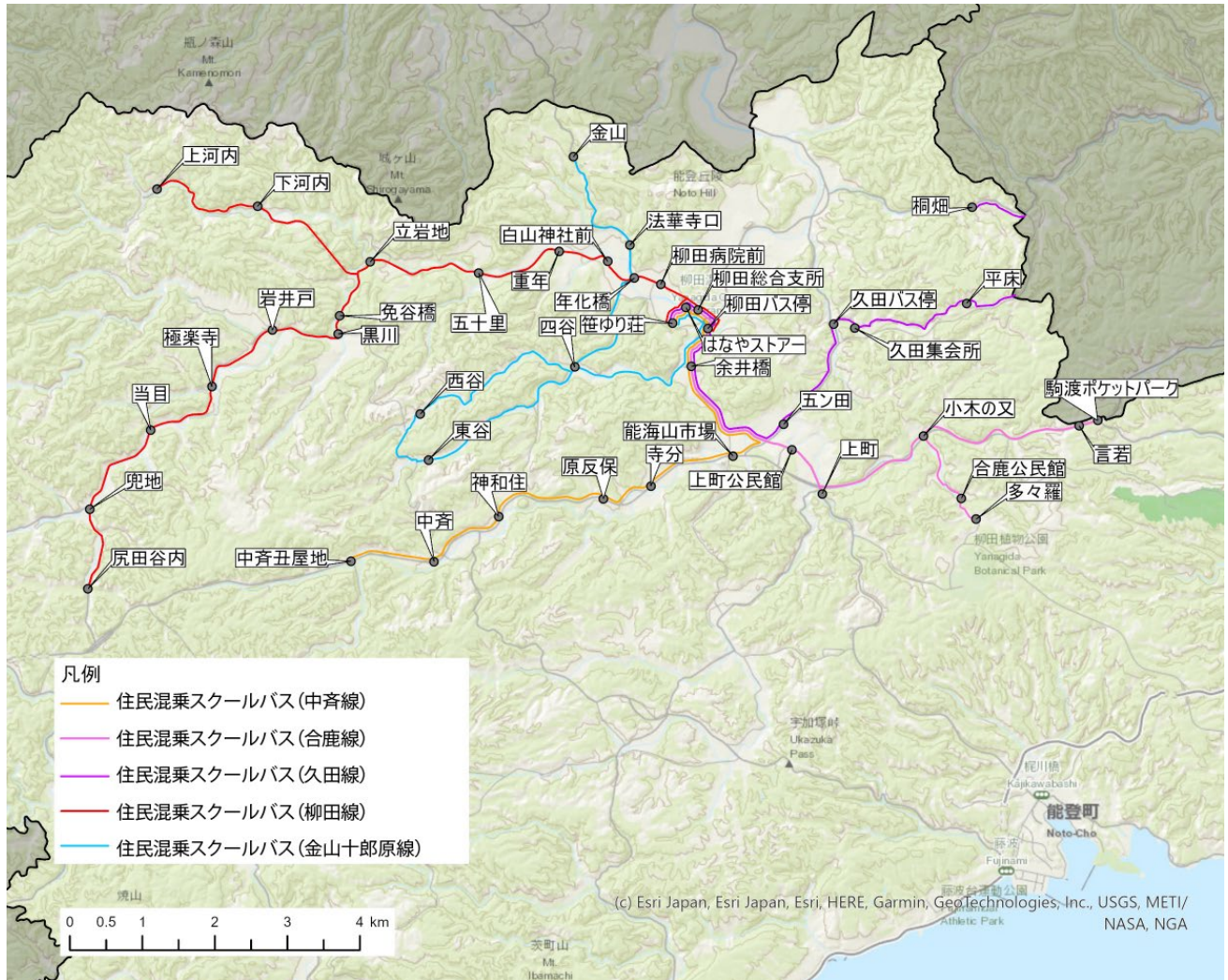
運行便数	中斉線、柳田線、金山十郎原線 : 平日 8 便(上り 4 便・下り 4 便) 合鹿線、久田線 : 平日 9 便(上り 4 便・下り 5 便)
利用者数 (R3平日・上下計)	中斉線 : (児童)22.7 人/日 (一般) 1.3 人/日 合鹿線 : (児童) 8.0 人/日 (一般) 1.3 人/日 久田線 : (児童) 5.6 人/日 (一般) 0.7 人/日 柳田線 : (児童)17.4 人/日 (一般) 3.5 人/日 金山十郎原線 : (児童)10.4 人/日 (一般) 0.9 人/日
利用特性	利用者数は減少傾向にあります。児童生徒は朝と夕方の通学時間帯は利用していますが、一般住民はどの路線のどの便においてもほとんど利用していません。 ・利用者数は年々減少しており、令和 3 年度の利用者数は年間約 2,000 人となっています。 ・令和 3 年度の便別利用者数は、どの路線も朝と夕方の便に 1 便あたり 2 人以上の児童生徒が利用し、中でも中斉線は 10 人以上と最も多く利用しています。しかし上りの 2 便目以降と下りの朝の便はほとんど利用されていません。 【関係機関ヒアリングより】 ・柳田線は一般の方が買物で利用することがあります。 ・児童は、行きは住民混乗スクールバスを利用し、帰りは保護者の迎えで帰る傾向にあります。
改善点	【関係機関ヒアリングより】 ・住民混乗スクールバスは昼間の時間帯の利用が少ないため、児童が利用する朝と夕方の 2 便に減らすのがよいと考えられます。 ・混乗であるため、学校行事等の都合で運行時刻を変更することはできず、課外授業等の時には追加で配車している現状にあります。便数を減らす、曜日ごとに運行するといった対応が必要だと考えられます。 ・スクールバスの運転手(大型 2 種免許保有者)の年齢制限は 70 歳であり、高齢化による運転手不足は深刻な問題となっています。

図表 住民混乗スクールバス利用者数推移



出典:能登町

図表 住民混乗スクールバス ルート図



図表 住民混乗スクールバス 便別利用者数(令和3年度・平日)

ルート		上り				下り				
		1便	2便	3便	4便	1便	2便	3便	4便	5便
中斉線	児童	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	10.0	1.2	—
	一般	0.1	0.4	0.2	0.0	0.1	0.5	0.0	0.0	—
合鹿線	児童	2.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.5	3.6	0.0
	一般	0.2	0.2	0.2	0.0	0.0	0.1	0.6	0.0	0.0
久田線	児童	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.4	0.2
	一般	0.1	0.2	0.0	0.0	0.1	0.2	0.1	0.0	0.0
柳田線	児童	9.3	0.0	0.0	0.0	0.1	2.1	5.2	0.7	—
	一般	0.9	1.0	0.0	0.0	0.1	0.9	0.3	0.3	—
金山十郎原線	児童	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	4.5	1.0	—
	一般	0.1	0.2	0.0	0.0	0.3	0.3	0.0	0.0	—

※ 乗車人数2人以上

出典:能登町

5-6 特急バス乗継状況

- ・特急バスと路線バスの乗継状況は、午前中に金沢方面に行く特急バスの便に接続していない場合があります。通院や買物等での利用が難しくなっています。
- ・予約制乗合タクシーは、能登町役場前発の上り 1 便目の特急バスには接続していません。路線バスを利用できない地域にお住まいの方の、特急バスの利用が不便になっています。

●能登町役場前バス停

		発着時刻	町野線	上曾又線	宇出津珠洲線A	穴水珠洲線C	穴水宇出津線C	予約制乗合 タクシー
珠洲宇出津特急バス	上り	7:47発	—	○	×	○	○	—
	珠洲→金沢	13:07発	×	×	○	×	×	○
	下り	10:10着	×	×	×	×	×	○
	金沢→珠洲	18:45着	×	○	×	×	×	—

●小木港バス停

		発着時刻	宇出津珠洲線A	穴水珠洲線C
珠洲宇出津特急バス	上り	7:28発	×	○
	珠洲→金沢	12:48発	○	×
	下り	10:29着	×	×
	金沢→珠洲	19:04着	×	×

●柳田天坂バス停

		発着時刻	町野線
珠洲宇出津特急バス	上り	7:57発	×
	珠洲→金沢	13:17発	×
	下り	10:00着	×
	金沢→珠洲	18:35着	○
珠洲特急バス	上り 珠洲→金沢	6:50発	×
		8:31発	○
		13:50発	×
	下り 金沢→珠洲	13:13着	○
		16:53着	○
		20:03着	○

●内浦駒渡バス停

		発着時刻	うちうら線
珠洲特急バス	上り 珠洲→金沢	6:42発	○
		8:23発	○
		13:42発	×
	下り 金沢→珠洲	13:21着	×
		17:01着	○
		20:11着	×

5-7 地域公共交通の情報提供

- ・能登町役場前バス停には待合室があります。宇出津病院前バス停や辺田の浜バス停等、上屋が整備されているバス停も見られます。

▼能登町役場前バス停の待合室



▼宇出津病院前バス停の上屋



▼辺田の浜バス停の上屋



- ・公立宇出津総合病院の入り口付近には、予約制乗合タクシーの「おかえり便のりば」の看板が設置され、ベンチも横に置かれています。

公立宇出津総合病院の予約制乗合タクシー案内▶



- ・バス停にルート図がないと、観光客等初めて訪れた人にとって、バスは利用しづらくなります。一部のバス停ではルート図が貼られていますが、理解することが難しいことが想定されます。また、バス停の文字も小さいため、高齢者等にとって、見づらいことが懸念されます。

▼能登町役場前バス停時刻表



▼北鉄路線バス ルート図



▼バス停の時刻表とルート図



- ・公立宇出津総合病院では、病院内に時刻表が貼ってあるものの、どこに何の情報があるのかわかりづらく、また、小さい文字であるため、読むことが大変です。

公立宇出津総合病院内に掲示されている時刻表▶

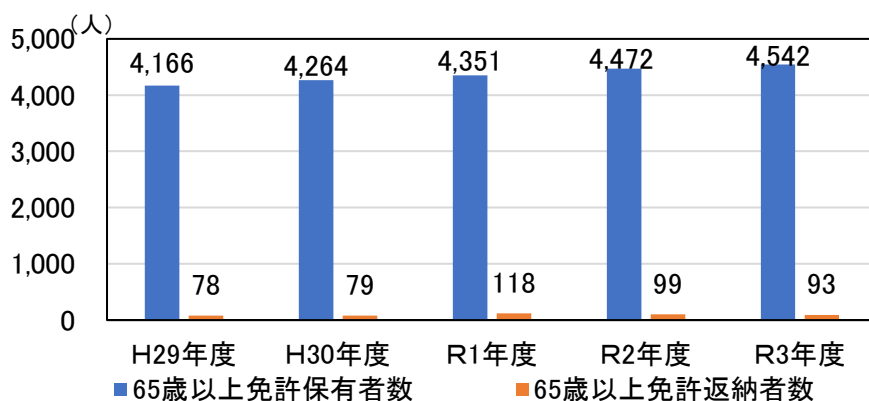


5-8 高齢者の移動

高齢者の運転免許返納者数は増加傾向にありますが100人にも満たず、必ずしも免許返納が公共交通の利用促進に直結するとは限らない状況です。

- ・運転免許証保有者数は、年々増加しており、令和3年度12月末時点では65歳以上免許保有者数は4,542人です。一方、運転免許証返納者数は増加傾向にあるものの、1年間で100人ほどであり、保有者数の増加傾向と比べると免許の返納が進んでいないのが現状です。

図表 高齢者の運転免許保有者数・返納者数



出典: 珠洲警察署提供データ

【関係機関ヒアリングより】

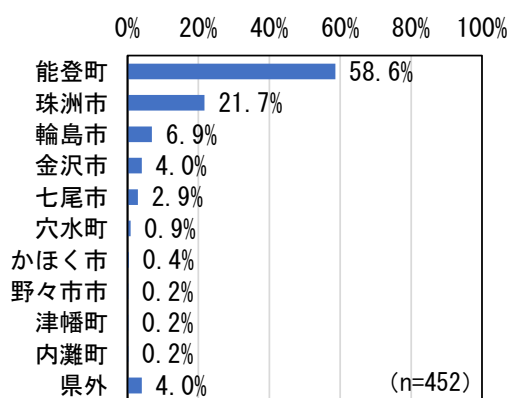
- ・高齢者の移動手段としては、自家用車を運転しての移動が最も多い。高齢者が公共交通を利用できない理由として、バス車両のステップが高い、買物の帰りは荷物を持ってバス停から自宅まで歩けない等があります。
- ・病院利用者は、診察が終わる時間が不明であり、また処方箋の受取りにかかる時間も異なるため、公共交通は利用しにくいと考えられます。
- ・予約制乗合タクシーの周知はまだ進んでいないと感じます。今後、高齢者が日常的に参加するお楽しみ会等のイベントでパンフレットを配布する等、高齢者が分かるように周知することが必要だと考えられます。

5-9 小中高生の移動

通学先は、能登町内が5割以上と最も多いです。能登高校の生徒の通学手段は送迎が最も多いですが、路線バスを利用している生徒もいます。小中学生は全額定期補助を受けていますが、能登高校生の定期補助は2割となっています。

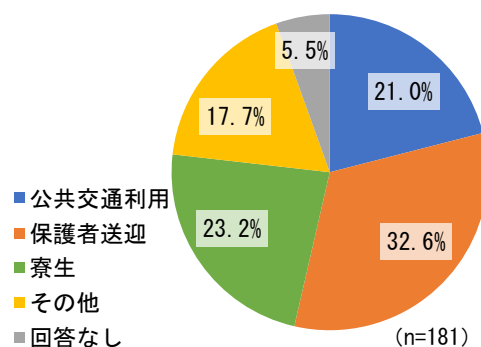
- ・通学先は能登町の学校が58.6%と最も多く、次いで珠洲市が21.7%、輪島市が6.9%になっています。
- ・中学生は基本的に徒歩で移動しています。遠方に住む中学生は路線バス、スクールバス、自転車を利用しています。なお、路線バス利用者は定期代の全額補助が受けられます。(関係機関ヒアリングより)
- ・能登高校生の移動手段は送迎が最も多いです。なお、能登高校生の路線バスの定期補助は2割となっています。(関係機関ヒアリングより)

図表 通学移動実態



出典: R2 国勢調査

図表 能登高校生の通学手段(R4年9月15日時点)



出典: 関係機関ヒアリングより

【関係機関ヒアリングより】

- ・遠距離通学については、小中学生はスクールバスで移動手段を確保できます。一方、高校生については、路線バスが利用できない、保護者が送迎できない学生に対して配慮が必要であると考えられます。
- ・路線バスが運行していない地区において、高校生もスクールバスに乗車できないかといった保護者からの要望があります。

5-10 運行事業者が抱える課題

関係機関ヒアリングより、運行事業者が抱える課題について、以下のような意見が挙げられました。

高齢化による運転手不足への懸念

- ・特急バスの運転手不足は深刻であり、今後、特急バスの便数を維持できるか不安です。
- ・スクールバス運転手の年齢制限は 70 歳であり、高齢化による運転手不足は深刻です。
- ・タクシー運転手は年配者が増加し、若い人が減少しています。2 種免許取得のための費用補助は必要です。しかし費用補助があっても、定期点検、車検、保険にかかる費用や身障者の割引負担等、タクシー事業者の経費は大きく、免許取得者を雇うことが難しいのが現状となっています。

タクシー事業継続に対する不安

- ・令和 3 年度に 1 事業者が撤退したことから、他の事業者もタクシー事業を継続できなくなるのではないかと不安です。
- ・新型コロナウイルスの影響で乗用タクシー利用者は減少し、現在は予約制乗合タクシーの運行がほとんどです。今後、乗用タクシーのみの運行に戻ることは、経営的に難しくなっています。

予約制乗合タクシーの登録・利用者が増加した一方、利用方法の理解が行き届いていない

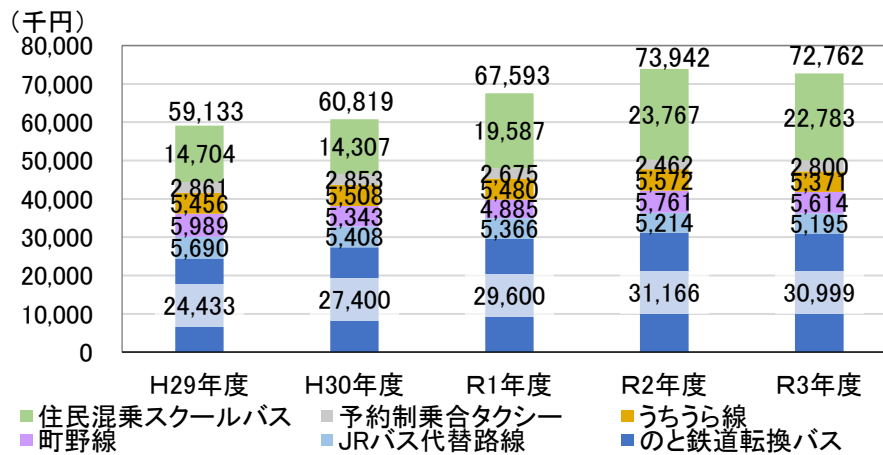
- ・予約制乗合タクシーを利用して個人クリニックまで行く方がいらっしゃいます。しかし、乗用タクシーへの切り替えが必要であるため追加で運賃がかかるのですが、その仕組みを理解されにくい状況です。
- ・予約制乗合タクシーのおかえり便を予約した人が時間になっても乗車場所に来ないことがあります。乗車場所を増やすと運行ルートも複雑になり、事業者の負担も増えるため、おかえり便の乗り場は現状のまま公立宇出津総合病院の 1 箇所の方がよいと考えられます。

5-11 地域公共交通にかかる町の負担額

町負担費用は年々増加傾向にあり、令和 3 年度には年間 7,000 万円以上町が負担しています。

- ・各路線にかかる補助金や業務委託費用等、町負担額は年々増加傾向にあり、令和 3 年度には年間 72,762 千円となっています。
- ・令和 3 年度の内訳は、のと鉄道転換バスへの補助が約30,999千円と最も多く、次いで住民混乗スクールバスへの補助が約22,783千円となっています。一方、予約制乗合タクシーへの補助は約2,800千円となっています。

図表 地域公共交通にかかる町負担費用推移



出典：能登町

6. 地域公共交通を取り巻く課題の整理

課題1 合併前の地域公共交通の仕組みが継続しており、町全体での地域公共交通の体系が必要

- ・合併前の仕組みが継続している地域があったり、町全体での合併後の目指す地域公共交通ネットワークが明確化されていないため、地域公共交通の体系化が必要である。

課題2 町域を越えた移動の見直しが必要

- ・金沢や近隣市町への広域移動は、町民にとって重要であり、例えば令和4年3月で廃止となった穴水町と宮地・鮭尾・太田原・柏木地区をつなぐ太田原線の代替手段の確保や、特急バスとその他の地域公共交通との乗継強化等の利便性の向上が必要である。

課題3 財政負担が増え続けており、需要に合った効率化が必要

- ・町の地域公共交通に対する費用負担は増加し続けている。限りある資源の有効活用を図り、適切な配分をすることで効率化を図ることが必要である。

課題4 地域公共交通の利便性向上と利用促進が必要

- ・地域公共交通は中高生の通学や、高齢者の通院・買物に利用されているが、利用者数の減少は続き、使いたい時間にバス等が走っていない、バス停まで距離があるため利用しにくい等の意見があることから、利便性の向上を図り、広く周知を行うことで利用につなげることが必要である。

課題5 運行事業者の事業継続が厳しくなっており対応が必要

- ・運転手不足、運転手確保のための賃金の支払いや車両購入が難しい等、運行事業者の置かれた状況は深刻であり、地域公共交通の維持が懸念される。

課題6 町民の地域公共交通利用への意識醸成が必要

- ・ふだん地域公共交通を利用しない人でも将来的に利用したいと考えている人、さまざまな理由で自動車を運転できなかったり、送迎をお願いできる人もいない方にとって、地域公共交通は必要なサービスである。しかし、利用者は減少し続けており、今後地域公共交通の維持が困難になることが推測される。そのため、町民が地域公共交通に対して関心を持ち、利用する意識を持つことが必要である。

7. 地域公共交通計画の基本的な方針

課題を解決するため、下記の基本方針を定めます。

基本方針1

町内全体で最適な地域公共交通ネットワークをつくる

- ・町内全体で地域公共交通を俯瞰的、総合的な視点で見直し、最適化を図る。
- ・宇出津エリアを拠点とした地域公共交通ネットワークを形成する。

基本方針2

町民、行政、事業者にとって持続可能な地域公共交通を目指す

- ・地域公共交通の改善や周知活動を行い、町民の移動の利便性向上と利用促進を図る。
- ・利用状況等から運行の見直しを行い、効率化を図り町の財政負担の軽減を図る。
- ・運行事業者が抱える課題を、地域の課題として捉え、改善策を検討する。

基本方針3

町全体で連携し、地域公共交通を支える

- ・地域公共交通は、医療、福祉、商業、交通安全、教育、観光、まちづくり、地域コミュニティ等、多岐にわたる分野に関係している。関係する施設や団体と連携し、町全体で地域公共交通を利用して支える仕組みをつくる。

8. 地域公共交通計画の目標指標

基本方針の達成度を把握するため、以下の指標と目標値を設定します。

指 標	現況値(令和 3 年度)	目標値(令和 9 年度)	評価年
町内の公共交通利用者数	93,677人/年	100,000人/年	毎年

【評価方法等】能登町が各交通事業者より利用者数データを収集し試算する。特急バス、路線バス、住民混乗スクールバス、予約制乗合タクシーの年間利用者数の計。北鉄奥能登バス(株)の路線は利用者数調査より試算。町を越えて運行している特急バスと一部の路線バスは、町内区間の乗車数で試算。

指 標	現況値(令和 4 年度)	目標値(令和 9 年度)	評価年
予約制乗合タクシーの収支率	23.9%※	現状より改善	毎年

【評価方法等】予約制乗合タクシーの運賃収入/運行費用

※令和 4 年 4 月～9 月の平均値

【補足】予約制乗合タクシーの収支率についてのみ現況値(令和 4 年度)としているのは、令和 4 年 4 月 1 日に利用料金の改定を実施しており、他指標とは違い、本指標は令和 3 年度の状況と大きく異なることから、本指標のみ令和 4 年度の数値で試算。

指 標	現況値(令和 3 年度)	目標値(令和 9 年度)	評価年
地域公共交通にかかる財政負担額	72,762 千円/年	現状より減少	毎年

【評価方法等】路線バスと予約制乗合タクシーの補助金、及び住民混乗スクールバスの業務委託費用の合計。能登町が金額をまとめる。

9. 目標達成のための施策と事業

基本方針達成のための取組施策、事業、及び実施主体を以下に示します。

基本方針	施策	事業	実施主体
基本方針 1 町内全体で最適な地域公共交通ネットワークをつくる	1-1 ネットワーク再編に向けた公共交通の推進	①特急バスの乗継強化	運行事業者、能登町
		②路線バスの町内定額化	運行事業者、能登町
		③支線の路線の効率化	運行事業者、能登町
基本方針 2 町民、行政、事業者にとって持続可能な地域公共交通を目指す	2-1 町内の公共交通の利便性向上	①路線バスの町内定額化(再掲)	運行事業者、能登町
		②路線バスの見直し	運行事業者、能登町
		③予約制乗合タクシーの利便性向上	運行事業者、能登町
		④路線バス廃止に伴う救済措置	運行事業者、能登町
		⑤公共交通系 IC カード等を利用した電子決済の検討	能登町
	2-2 運行事業者への支援	①運転手確保支援	運行事業者、能登町
		②車両購入補助	運行事業者、能登町
		③予約制乗合タクシーの補助見直し	運行事業者、能登町
	2-3 町民へのわかりやすい情報提供	①わかりやすい案内や時刻表の作成	運行事業者、能登町
		②主要施設における案内設置	町内施設、能登町
		③検索しやすい環境の整備	運行事業者、能登町
基本方針 3 町全体で連携し、地域公共交通を支える	3-1 学生の利用促進	①学生による地域公共交通の利用促進	能登町
		②高校生の通学定期券補助	能登町
	3-2 高齢者の利用促進	①各種団体と連携した地域公共交通利用促進	町内施設、能登町
	3-3 地域公共交通利用のための意識醸成	①各種団体と連携した地域公共交通利用促進(再掲)	町内施設、能登町
		②広報媒体による継続的な情報提供	運行事業者、能登町

10. 取組施策の概要

基本方針1 町内全体で最適な地域公共交通ネットワークをつくる

以下に、将来的な能登町の地域公共交通の役割と確保・維持のための方策を示します。

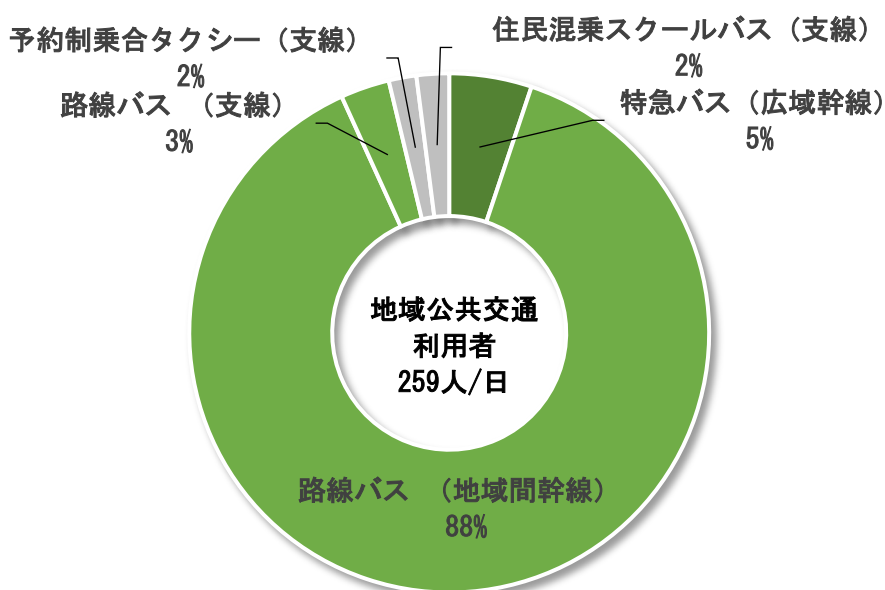
運行事業者による責任ある運行が維持できるよう需要の確保をしつつ、町内全体のサービスバランスに配慮しながら、路線の位置づけと利用状況に基づき効率化を図ったり、地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用することで、持続可能な地域公共交通ネットワークを構築します。

表 地域公共交通の位置づけと確保・維持策

位置づけ	役割	路線名	確保・維持策
広域幹線	都市間の広域的な移動を支える路線	・特急バス各路線	交通事業者と連携し、需要の確保を行う
地域間幹線	地域内移動を支えるとともに、周辺市町の移動を担う路線	・のと鉄道転換バス各路線 ・町野線	
支線	地域内の日常的な移動を支える路線で、幹線や地域拠点に接続する路線	・うちうら線 ・住民混乗スクールバス	利用状況に応じて効率化を図る
		・予約制乗合タクシー	地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用予定

能登町の地域公共交通の利用は、路線バス(地域間幹線)が8割以上を占めて最も多く、次いで路線バス(支線)、特急バス(広域幹線)となっており、町民の日々の移動にとって、特急バスと路線バスの利用促進が、持続可能な能登町の地域公共交通の実現のために重要であると言えます。

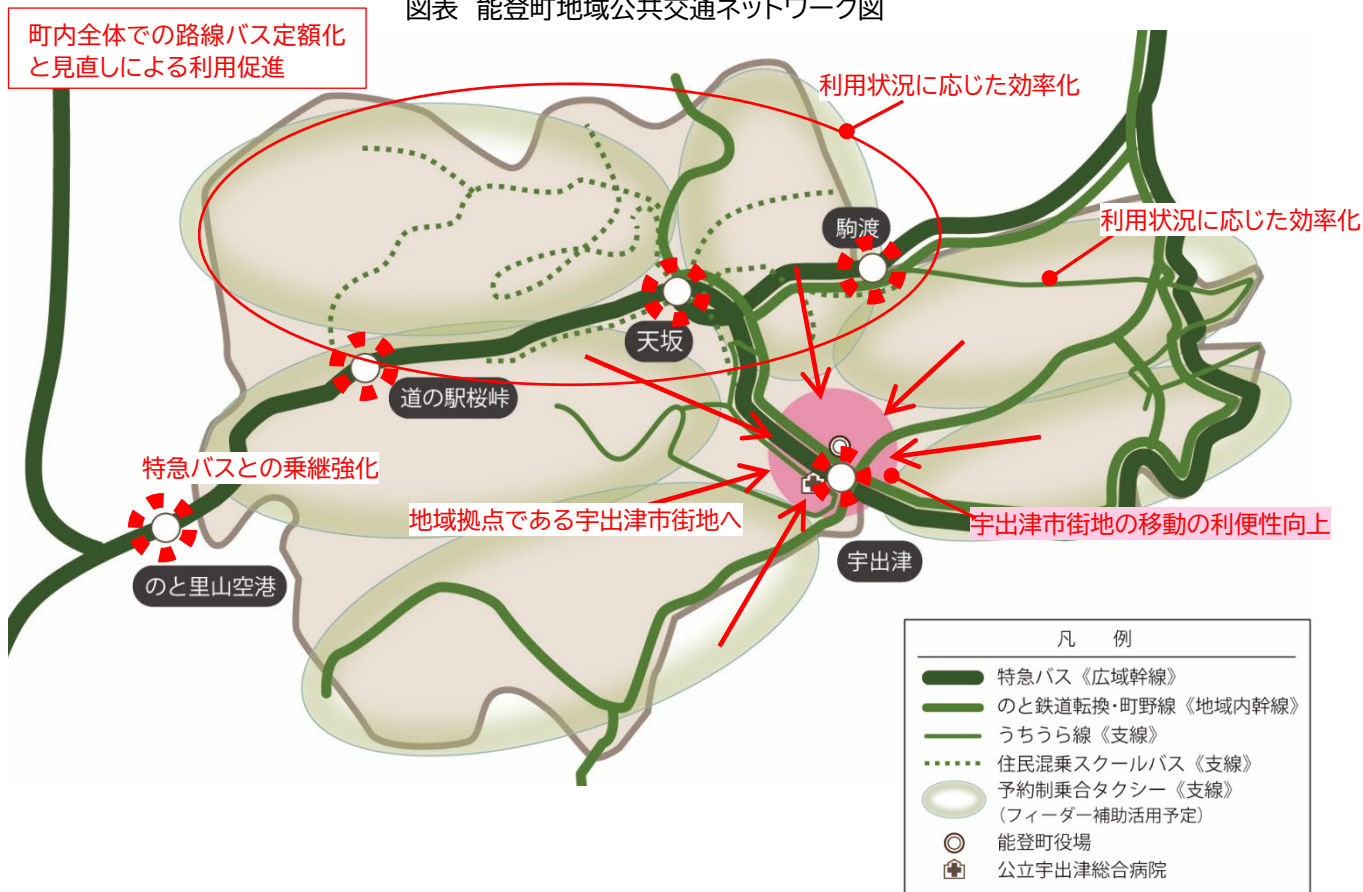
図表 1日あたりの地域公共交通の利用者数割合



宇出津市街地を地域拠点として、地域拠点への接続を確保するとともに、広域路線である特急バスへの乗継を強化します。さらに、地域拠点内での移動の利便性向上も図り、拠点の強化を図ります。また町内全体で路線バスの定額利用化と見直しを行い、利用促進を図ります。

予約制乗合タクシーは、地域内の日常的な移動を支え、幹線や地域拠点に接続する役割を担っている重要な路線です。その一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは今後の路線の維持が難しいため地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)により運行を確保・維持していく必要があります。

図表 能登町地域公共交通ネットワーク図



施策 1-1. ネットワーク再編に向けた公共交通の推進

1-1-① 特急バスの乗継強化					
事業概要	・路線バスと予約制乗合タクシーの特急バスとの乗継を強化します。予約制乗合タクシーで乗継ができることで、ドア to ドアでの特急バスの利用が可能となります。また、金沢医科大学病院や石川県立中央病院、金沢大学附属病院などの病院に通院されている方の利用が便利になります。				
実施主体	北鉄奥能登バス(株)、予約制乗合タクシー運行事業者、能登町				
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
	検討	検討・実証運行	実施	実施	実施

1-1-② 路線バスの町内定額化					
事業概要	・能登町内での路線バスの運賃を一律にすることで、利用者の利便性の向上を図ります。 ・路線バスの利用者数が減少し、運行が縮小していくなか、路線バスの利用者数を増やすことは、路線バスの維持につながります。				
実施主体	北鉄奥能登バス(株)、(株)恋路観光バス、能登町				
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
	検討	検討・実証運行	実施	実施	実施

1-1-③ 支線の路線の効率化					
事業概要	・支線として位置づけた、うちうら線と住民混乗スクールバスについて、利用状況に基づき、地域や運行事業者と協議をしながら、効率化を図ります。 ・住民混乗スクールバスについては、教育委員会とも協議をしながら、スクールバスとして必要なサービスを確保することとします。				
実施主体	(株)恋路観光バス、能登町				
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
	検討	実施	実施	実施	実施

基本方針2 町民、行政、事業者にとって持続可能な地域公共交通を目指す

施策2-1. 町内の公共交通の利便性向上

2-1-① 路線バスの町内定額化(再掲)					
事業概要	・能登町内での路線バスの運賃を一律にすることで、利用者の利便性の向上を図ります。 ・路線バスの利用者数が減少し、運行が縮小していくなか、路線バスの利用者数を増やすことは、路線バスの維持につながります。				
実施主体	北鉄奥能登バス(株)、(株)恋路観光バス、能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	検討	検証・実証運行	実施	実施	実施

2-1-② 路線バスの見直し					
事業概要	・利用状況を基に、町民のニーズを把握して、より使いやすくなるよう見直しを行います。特に、特急バスとの乗継強化や、子どもの習い事の送迎による保護者の負担軽減につながるよう配慮します。 ・地域間幹線の見直しの際は、周辺市町との協議を行います。				
実施主体	北鉄奥能登バス(株)、(株)恋路観光バス、能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	検討	実施	実施	実施	実施

2-1-③ 予約制乗合タクシーの利便性向上					
事業概要	・現在、公立宇出津総合病院や役場、公園2箇所で降車する必要がありますが、個人病院や金融機関、郵便局や生活必需品の購入の利便性向上のため、宇出津地域内で降車できるようにします。また、北鉄奥能登バスが運行していた柳田線の廃止となった路線の沿線である当目・柳田エリアにおいて、柳田総合支所の降車も、商業地を中心とした一部地内で降車できるようにします。 ・予約制乗合タクシーの運行を、安定的に確保・維持するため、地域公共交通確保維持事業(フィーダー補助)を活用する予定です。				
実施主体	予約制乗合タクシー運行事業者、能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	実施	実施	実施	実施	実施

2-1-④ 路線バス廃止に伴う救済措置					
事業概要	・令和 4 年 3 月に太田原線が廃止、令和 5 年 3 月に上曽又線が廃止となります。路線沿線に住む能登高校生の通学の救済措置として、小中学生のスクールバスを無償で利用できるようにし、高校生の通学の移動手段を確保します。 ・今後、路線バス廃止が生じた場合、その沿線の小中学生については教育委員会とスクールバス運行の相談を行い、能登高校生についてはそのスクールバスに乗合できるよう通学の救済措置を行います。 ・近隣市町の公立病院に通院の方に対しても同様に、今後、お住まいである地域において路線バスの廃止が生じ通院が出来なくなった方に対しては、お住まいの地域と近隣市町の公立病院を結ぶタクシーなどの交通機関による運行等の救済措置を行います。				
実施主体	教育委員会、交通事業者、能登町				
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
	実施	実施	実施	実施	実施

2-1-⑤ 公共交通系 IC カード等を利用した電子決済の検討					
事業概要	・全国相互利用可能な交通系 IC カードや地域通貨等を活用して、能登町内での路線バス、住民混乗スクールバス、予約制乗合タクシー及びタクシーでの支払いができるよう検討を行います。				
実施主体	内浦商店連盟協同組合、能登町				
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
	—	検討	検討	実証実験	実施

施策2-2. 運行事業者への支援

2-2-① 運転手確保支援					
事業概要	・能登町内のバス及びタクシー事業者に就職した方を対象に、二種免許取得に必要な経費を補助し、運転手の確保を支援します。				
実施主体	能登町内のバス・タクシー事業者、能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	検討	実施	実施	実施	実施

2-2-② 車両購入補助					
事業概要	・車両の新規購入や入替に対する補助を実施し、運行事業者の運行継続の支援を行います。 ・車両購入補助のほか、車両を町所有、維持管理を運行事業者が負担する、上下分離方式の導入についても検討を進めます。				
実施主体	能登町内のバス・タクシー事業者、能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	—	—	検討	実施	実施

2-2-③ 予約制乗合タクシーの補助見直し					
事業概要	・予約制乗合タクシーの運行事業者への補助を見直し、運行事業者が適正な収入を得て、持続可能な運行をできるようにします。(令和4年4月～実施)				
実施主体	能登町内のバス・タクシー事業者、能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	実施	実施	実施	実施	実施

施策2-3. 町民へのわかりやすい情報提供

2-3-① わかりやすい案内や時刻表の作成

事業概要	・地域公共交通は、高齢者や障がい者等あらゆる人が利用するため、媒体(紙の時刻表、バス停案内、待合室での案内板等)によって提供すべき情報を整理し、統一したフォーマット(色・番号・文字の種類や大きさ、案内方法等)で、案内や時刻表を作成し、見やすさや分かりやすさの向上を図ります。 ・複数の運行事業者間や、路線バスと予約制乗合タクシー等の複数の公共交通間においても、情報の内容や文字の大きさや色等を統一します。				
実施主体	北鉄奥能登バス(株)、(株)恋路観光バス、予約制乗合タクシー運行事業者、能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	検討・実施	実施	実施	実施	実施

【参考】▶

複数の事業者間での情報を整理
(京都市交通局「市バスの『わかりやすさ向上』のための
デザインマニュアル」)



改善前
バラバラのデザイン・情報



改善後
複数事業者連携でのりば番号を付番、案内板・上屋の表示の情報とデザインを統一

出典:京都市広報資料(平成25年3月27日)



◀【参考】

路線を色で表現し、地図上にわかりやすくルートを示し、大きな文字で停車バス停や主要目的地を掲載した、バス停に貼られた路線図(北陸鉄道株式会社)

2-3-② 主要施設における案内設置

事業概要	・公立宇出津総合病院やコンセルのと等の主要施設に、地域公共交通の案内を設置します。その際も、「2-3-① わかりやすい案内や時刻表の作成」に準拠して作成・設置します。				
実施主体	町内施設、北鉄奥能登バス(株)、(株)恋路観光バス、予約制乗合タクシー運行事業者、能登町				
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
	検討・実施	実施	実施	実施	実施

【参考】駅に設置されたデジタルサイネージ(岐阜県中津川市)

現在時刻 Time		中津川駅前 バス発車案内	バス路線図 (中津川駅前発着)
10:30	Welcome to Nakatsugawa - Bus Departures		
発車時間 Departure time	行き先 Destination	のりば Bus stand	
こんど	東鉄バス 中津川線		
10:35	恵那駅前	2	
つぎ	北恵那バス 馬籠線[下り・中切経由]		
10:45	馬籠	3	
そのつぎ	北恵那バス 坂下線[下り]		
11:00	坂下駅前	3	
そのつぎ	北恵那バス 恵那線(市民病院)[下り]		
11:00	中津川市民病院	4	



中津川駅での時刻に合わせた出発案内

2-3-③ 検索しやすい環境の整備

事業概要	・インターネット上の地図情報や経路検索システム等で検索できない路線があるため、検索サイトにデータを提供し、外国人や観光客を含む幅広い方たちへの情報提供を行います。				
実施主体	(株)恋路観光バス、能登町				
スケジュール	令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度
	—	検討	実施	実施	実施

基本方針3 町全体で連携し、地域公共交通を支える

施策3-1. 学生の利用促進

3-1-① 学生による地域公共交通の利用促進					
事業概要	・学生にとって貴重な町内・他市町間を移動することが出来る路線バスと、数少ない金沢方面への移動手段である特急バスを維持していくため、学生が気軽に利用することが出来るように、ホームページ等でわかりやすく町内を運行する全路線の運行ダイヤを掲示する等、利用促進を図っています。				
実施主体	能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	実施	実施	実施	実施	実施

3-1-② 高校生の通学定期券補助					
事業概要	・能登高校生の通学のためにかかる費用や送迎にかかる保護者の負担は大きい ため、通学定期券の補助を行い、地域公共交通の利用促進や保護者の負担軽減を図っています。				
実施主体	能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	実施	実施	実施	実施	実施

施策3-2. 高齢者の利用促進

3-2-① 各種団体と連携した地域公共交通利用促進					
事業概要	・高齢者向けの教室が開催される施設、各地区の公民館、公立宇出津総合病院等の町内の施設や団体と連携を図り、高齢者や病院通院者等への利便増進を目指します。時刻表の掲示、イベントや教室案内の際には、地域公共交通の時刻を掲載等することで、施設や団体の取組と地域公共交通双方の新規顧客の開拓や利用増加を目指します。				
実施主体	町内施設、能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	検討	実施	実施	実施	実施

施策3-3. 地域公共交通利用のための意識醸成

3-3-① 各種団体と連携した地域公共交通利用促進(再掲)

事業概要	・高齢者向けの教室が開催される施設、各地区の公民館、公立宇出津総合病院等の町内の施設や団体と連携を図り、高齢者や病院通院者等への利便増進を目指します。時刻表の掲示、イベントや教室案内の際には、地域公共交通の時刻を掲載等することで、施設や団体の取組と地域公共交通双方の新規顧客の開拓や利用増加を目指します。				
実施主体	町内施設、能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	検討	実施	実施	実施	実施

3-3-② 広報媒体による継続的な情報提供

事業概要	・町民が地域公共交通の利用に関心をもってもらうため、広報やホームページで地域公共交通の利用方法や利用者数、費用等の情報の公表を行います。				
実施主体	能登町				
スケジュール	令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
	検討	実施	実施	実施	実施

【参考】広報でコミュニティバス運行に係る収支を公開
(富山県朝日町)



図 広報あさひ 2017.2

【参考】広報で路線別・便別利用者数を公開
(石川県志賀町)

路線名	便数/日		運賃 (中学生以下無料)	利用者数	
	平日	日曜		年間	1便あたり
富来地域					
福浦線	4便	2便	100円	3,751人	2.8人
熊野線	3便	2便	100円	2,178人	2.1人
増穂線	4便	2便	100円	3,215人	2.4人
増穂線	4便	2便	100円	1,114人	0.8人
西海・西浦線 (その1)	3便	0便	100円	6,806人	6.3人
西海・西浦線 (その2)	2便	0便	100円	2,045人	3.3人
西浦線	1便	0便	100円	1,994人	5.5人
市街地循環線 (Aコース)	3便	0便	無料	8,975人	8.3人
市街地循環線 (Bコース)	3便	0便	無料	4,641人	4.3人
志賀地域					
志加浦線	4便	2便	100円	5,456人	4.0人
土田東回り線	4便	2便	100円	4,609人	3.4人
土田西回り線	4便	2便	100円	3,526人	2.6人
上無野線	4便	2便	100円	4,064人	3.0人
加茂循環線	4便	2便	100円	7,706人	5.8人
下甘田線	3便	0便	100円	2,789人	2.6人
中甘田・甘田線	4便	2便	100円	4,629人	3.5人

■ : 1便あたり5人以上の利用者数、■ : 1便あたり3人以下の利用者数

図 広報しか 2018.1

11. 計画の推進体制と進捗管理

本計画は、本町が目指す公共交通施策の基本方針を示したものであり、今後、この基本方針に即して各施策・事業の実施に向けた「方法・役割分担・予算化」等について具体的な検討を進めます。また、公共交通施策の実施は、他分野の施策と一体的に取り組むことで効果を発揮するものもあり、庁内関係課のみならず、国や県並びに周辺市町、公共交通運行事業者等と緊密に連携しながら、将来のまちづくりを見据えた取組を展開します。また、住民・地域と行政が協働して施策を推進するという観点に立ち、地域住民や町会等からの支援や協力を得て、持続可能な地域公共交通ネットワークの形成を目指します。

事業内容については、計画に基づく事業の実施状況、目標指標の達成状況を定期的に確認・評価・検証を行い、改善や見直しを図るPDCAサイクルに基づき進捗を管理します。毎年、能登町地域公共交通協議会によって進捗状況や効果を定量的・客観的に評価し、必要に応じて見直しを行っていくものとします。

図表 年間スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
能登町地域公共交通協議会			①					②				
			昨年度評価・確保維持改善計画				改編案検討・今年度評価					
実施事項	前年度の検証		今年度事業計画へ反映				次年度予算要求					
				今年度事業計画実施			今年度事業計画 中間評価					

目標や事業等の達成状況进行评估するため、収集データと実施主体案は以下のとおりです。目標の数値の他に、利用者や運行事業者の意見も聞くことで、数値では把握しづらい課題や改善点等を把握します。

図表 毎年収集する利用実績等

分類	収集データ	実施主体
特急バス	利用者数	北鉄奥能登バス(株)
路線バス	利用者数	北鉄奥能登バス(株) (株)恋路観光バス
住民混乗スクールバス	利用者数	能登町
予約制乗合タクシー	利用者数	能登町
	収支率	能登町
地域公共交通にかかる町負担	地域公共交通の運行・補助費用	能登町

図表 収集する意見等

分類	収集データ	実施主体
利用者の意見	町民の意見	能登町
運行事業者の意見	利用状況・運行上の課題や改善点	運行事業者

12. 能登町地域公共交通計画策定過程

12-1 策定経緯

日程	会議名等	内容
令和 4 年		
6月 23日	第 1 回能登町地域公共交通協議会	地域公共交通計画について意見交換
8 月 29 日～ 9 月 11 日	町民アンケート	町民 1,000 人対象の移動と公共交通の利用実態、移動ニーズに関する調査
8 月 29 日～ 9 月 11 日	予約制乗合タクシー利用者アンケート	予約制乗合タクシー利用者対象の利用状況、改善点等に関する調査
9 月～10 月	関係機関ヒアリング	地域公共交通の利用状況、改善点等に関する調査
11 月 28 日	第 2 回能登町地域公共交通協議会	地域公共交通を取り巻く課題と基本方針の検討
令和 5 年		
2 月 13 日	第 3 回能登町地域公共交通協議会	地域公共交通計画の目標値の検討 目標達成のための施策事業や実施主体の検討 計画の推進体制と進捗管理の検討
3月 1日～ 3月14日	能登町地域公共交通(案)に対するパブリックコメント	パブリックコメント(意見公募)の実施



第 1 回能登町地域公共交通協議会



第 2 回能登町地域公共交通協議会

12-2 能登町地域公共交通協議会 委員名簿

区 分	団 体 名 等	役職名	氏 名	備 考
公共交通事業者	北鉄奥能登バス株式会社	代表取締役	谷口 透	
	宇出津タクシー株式会社 (一般財団法人石川県タクシー協会)	代表取締役	新平 悠紀夫	
	有限会社めだか交通	代表取締役	干場 龍一	
	株式会社恋路観光バス	代表取締役	井口 信二	
道路管理者	石川県奥能登土木総合事務所 維持管理課	課長	細川 恒延	
	能登町建設水道課	課長	兄後 修一	
所轄警察署	石川県珠洲警察署 交通課	課長	原田 貴彦	
住民代表	能登町町会区長会連合会	会長	山本 勉	
	能登町町会区長会連合会	副会長	坂上 信彦	
	能登町町会区長会連合会	副会長	道下 薫	
	能登町老人クラブ連合会	会長	上野 耕平	
学校関係	石川県立能登高等学校	教頭	井上 正浩	
病院関係	公立宇出津総合病院	事務局長	上野 英明	
各種団体	能登町商工会	会長	酒屋 利信	
	能登町観光協会	会長	鍛冶 鍊太郎	
国土交通省	北陸信越運輸局石川運輸支局 企画調整部門	首席運輸企画専門官	打越 利子	
石川県	企画振興部新幹線・交通対策監室 交通政策課 交通政策グループ	主幹	島内 理名	
学識経験者	金沢大学 融合研究域融合科学系	教授	中山 晶一郎	
能登町	能登町	町長	大森 凡世	会長
	能登町教育委員会	事務局長	今井 久幸	
	能登町ふるさと振興課	課長	山下 栄治	
	能登町企画財政課	課長	諸角 勝則	事務局長

